

2019年度 北海道大学 大学院文学院

北海道大学 大学院文学院 2019

*Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University*



北海道大学
大学院文学院

*Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University*

文学院院长挨拶

「人文学」への誘い

文学研究科で行われている授業の学問分野を一言で表現するならば、「人文学」という言葉が相応しいだろうと思います。それでは「人文学とは何か」ですが、これについては古今を通じてさまざまな説明の仕方があります。

人文学、英語ではhumanitiesですが、このhumanitiesは「人間性」や「人間」を指すhumanityの複数形です。漢字の表記でも同じですが、この言葉から類推すると、人文学というのは、「人間に関係する学問」と言うことができます。この人文学は歴史的にはイタリア・ルネサンスにおいて興隆した「フマニタス研究（studia humanitatis）」に遡ることができ、このフマニタス研究は、古代ギリシア・ローマの哲学・文学などの原典研究を通じて幅広い教養を身につけ、人間性を回復することを目的としていました。そもそもこのラテン語のフマニタス(humanitas)は、「人間性」という意味とともに「教養」という意味もあり、教養と人間性が不可分な関係にあることが分かります。

「人文学とは何か」に話を戻し、この歴史的な経緯から考えますと、人文学とは「人間性を陶冶する教養を身につける学問」と言うことができるように思います。文学研究科で学ぶ人文学は、私たちが人間として豊かに生きていくために必要な学問であり、人文学を学ぶことは、人間として豊かに生きる教養を身につけることとすることができます。しかしそれは単にさまざまな知識を詰め込むことを意味してはいません。人文学は、もちろん古今東西のさまざまな知識などを対象としていますが、自分で考えることができ、自分の言葉で表現することができ、自ら行動することができる人間となることを目指しています。

昨今、実学志向が強くなりつつあり、就職や資格を重視する人たちは、人文学という学問にあまり魅力を感じないかもしれません。しかし人間として生きていくための学問として、人文学は最も重要な学問の一つだと思います。そのため文学研究科で学ぶ人文学は、修了した後も学び続けることを必要としています。大学院では一生学び続けることができる学問的な基礎を身につけ、修了後も一人一人が学び続けることが大切です。豊かな教養を身につけた者が、私たちの社会を担い、また次の世代へと文化を継承していくのです。

文学研究科は、平成31年度より「文学院」に改組し、新たな専門分野を加えより一層多彩な分野の教育にあたります。また「教養深化プログラム」を新たに実施し、広くまた深く人文学を学ぶ機会を提供します。さらに人文学に関する豊富な文献や資料を揃え、充実した教育研究環境を整えています。緑豊かなこの広大な北大のキャンパスで「人文学」を学んでみませんか。



北海道大学大学院文学院院长

山本 文彦 やまもと ふみひこ

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
教養深化プログラム	05-06
支援制度	07-08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 1	29-30

人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----

「人文学専攻」と「人間科学専攻」の2専攻体制に

文学研究科の思想文化学・歴史地域文化学・言語文学専攻を統合することで人文学の総合的な学びが可能となった「人文学専攻」と、人間システム科学専攻の先端的で豊かな研究環境を継承し、発展させた「人間科学専攻」の2専攻からなる文学院。

学際的な人文社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

- 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

- 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみなさんの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。
- 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室を新設することにより、社会的な関心に対応した、これまで以上に多彩な学修ができます。
- スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室*

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室*
- 博物館学研究室*
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室*

詳細は **P.09**

人間科学専攻

Division of Human Sciences

- 人間と社会に関する総合的な学修ができます。
- グローバルCOEなど大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。
- 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。
- 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

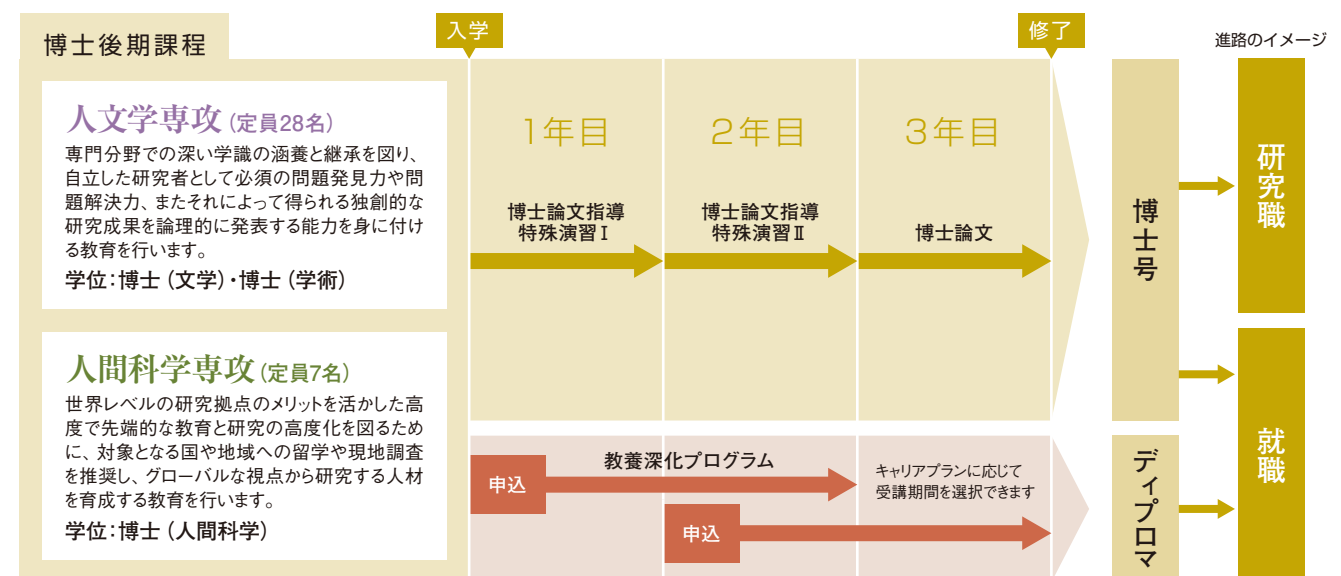
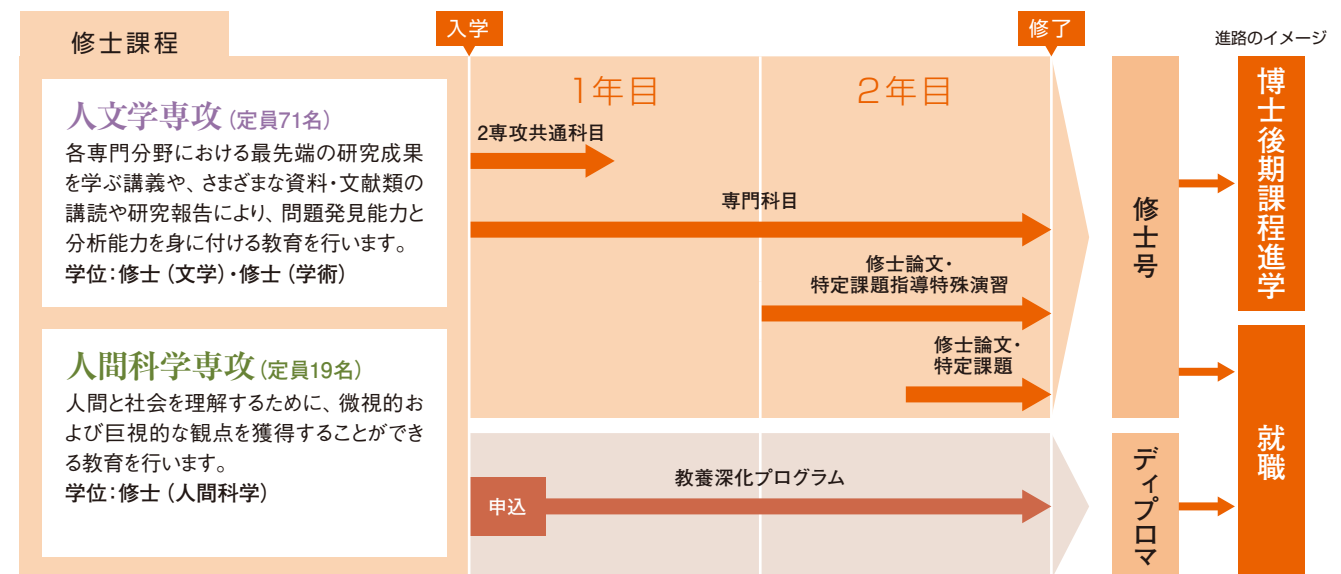
- 地域科学研究室

詳細は **P.31**

2専攻共通科目を新設。 俯瞰的な視野で 人文・社会科学を広く学修します。

新設の「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」は、各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学修することを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

- キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



教養深化プログラムの詳細は **P.05-P.06**

- 文学院が目指す人材像

人文学専攻

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析的確に行う能力を備えた人材。
- 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

- 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門的知識を修得できる能力を備えた人材。
- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。



2019年度から新たな教育プログラムを開設！ 文学院での学びを社会に活かす

教養深化プログラム



高度な専門知識を持った 即戦力人材に成長

※1. ジェネリックススキル
社会人として活躍するための能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な力を指す言葉として使われています。

教養深化プログラムの受講希望者は、
専門研究を深めていくかわら、
人文社会科学諸分野の総合的な学修と、
社会で役立つジェネリックススキル^{※1}を学修することにより、
高度な専門知識を有し、社会で即戦力となる
人材へと成長していきます。
博士後期課程の学生にとっても
幅広いキャリアへの扉が開けます。

プログラムの特徴

人文社会科学の 総合的な学修

文学院を含む文系6大学院を
横断する学びで
「考える力」「書く力」「読む力」
「発表する力」「総合する力」の
レベルアップを目指します。

文理融合・ 学際的な学修

数理的思考やさまざまな
データの分析及び活用方法を
学修するとともに、
自然科学分野の最先端の
知に触れることができます。

社会と繋がる 実践を重視

人材育成本部、キャリアセンター、
CoSTEP^{※2}と連携した
実践的なプログラムにより、
高度なジェネリックススキルが
身に付きます。

※2.CoSTEP
北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門。科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる、教育研究組織。

受講の流れ

北海道大学大学院 入学

修士課程
博士後期課程

●文学院

●教育学院
●法学研究科

●経済学院

●国際広報メディア・観光学院
●公共政策学教育部

教養深化プログラム申込

原則として希望者全員が参加できます

教養深化科目群(プログラム生限定科目)

●教養深化特別演習(基礎・総合)

基礎:多角的に分析し複合的に把握する能力を身につける。
(授業例) ■現代の古典を読む—人文学の海に挑む
■思考の方法論:情報の整理から分析、論の構成と検証、総合と説得へ
総合:基礎で習得した能力を実践を通じてさらに向上させる。
(授業例) ■ニセコ・フィールドスタディ
■修学旅行の企画を立てる

●サイエンスリテラシー特別演習(CoSTEPと連携)

数理的思考とデータ処理・活用法を知り、
自然科学研究の最先端に触れ、的確に伝えるスキルを学ぶ。
(授業例) ■人文社会科学からみたデータ:「歪み」を使いこなす
■科学と社会—人文科学と社会科学の観点からサイエンスを言葉にする



ジェネリックススキル科目群(大学院共通授業科目)

●ジェネリックススキル特殊講義

社会に必要な考え方や実践的なスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション等)を
身につける。
(授業例) ■キャリアマネジメントセミナー

●ジェネリックススキル特別演習

第一線で活躍するゲストスピーカーの講演等を通じて、自身のキャリアの可能性を考える。
(授業例) ■キャリア形成(集中講義)



修了要件を満たすとディプロマを取得できます。

国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に!

支援制度

この充実度は北大文学院ならではの 研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が揃っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。

若手研究者を多角的にサポートしています。

国際学会・全国学会に参加したい

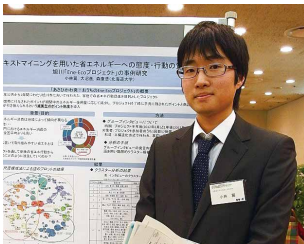
出張旅費支援

「共生の人文学」プロジェクト〈Graduate Grant Program〉

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表に対する旅費を支援しています。「北海道から参加するという経済的な負担を軽減してくれる」と利用者に好評です。資料調査や現地調査に対する旅費支援も行っています。

利用者の声

口頭発表に初挑戦。多分野の研究者が集う学会で自分の研究を見つめ直すことができました。



人間システム科学専攻※
行動システム科学専修

修士課程2年(2016年5月時)

小林 翼

KOBAYASHI Tsubasa

気候変動対策として注目される省エネルギー行動を普及させるための方策について、社会心理学の側面から研究しています。修士課程1年の秋に、東京で開催された省エネ行動研究の国内学会に参加するため、出張旅費支援に応募しました。

省エネ行動の研究は、経済学や教育学、環境工学、建築学など、文理を問わず幅広い分野で行われています。学会に集う様々なバックグラウンドの研究者から発表への意見をもらう事で、自分の研究のアピールポイントや今後の課題に気づく事ができました。心理学の研究者同士で議論しているだけでは得難い、異分野の視点からの評価を受けたからこそその経験だと思います。私にとっては初めての口頭発表で、大勢の前で自分の研究を伝えることに対する不安と同時に、旅費の心配がありました。発表に踏み出すきっかけとなったのは、経済的なハードルを取り除いてくれる文学研究科の出張旅費支援制度です。学会発表を通して自分の研究を見つめ直したことが自信となり、さらに国際学会での発表に挑戦することにもつながりました。皆さんもこの制度を活用して、自分の研究を国内外で試す機会を広げてください。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

異分野の視点から評価を受けたことが自信となり、国際学会での発表につながりました。

※2019年4月より、人間システム科学専攻は人間科学専攻へ、行動システム科学専修は行動科学研究室に名称変更します。

英文ジャーナル等に投稿したい

校閲費支援

「共生の人文学」プロジェクト〈Graduate Grant Program〉

国際学会・国際研究集会での発表及び国際学術雑誌や本研究科の英文ジャーナル*等へ積極的に応募・投稿できるように、発表原稿や投稿原稿の校閲(英文等の添削)料を支援しています。支援回数に制限がないため、本制度を上手に利用しているリピーターもいます。

利用者の声

経済的な不安が解消され、論文を寝かすことなく積極的に海外ジャーナルに投稿しています。



言語文学専攻※
西洋文学専修

博士後期課程3年

宮澤 優樹

MIYAZAWA Yuki

私は19-20世紀のアメリカ文学を中心とした英米文学を幅広く研究しています。これまでに3度、海外のジャーナルに論文を投稿する際に校閲費支援制度を利用しました。国内学会の投稿論文の受付が集中する春まで、執筆した論文を「冬眠」させないための挑戦でしたが、英文校閲の費用を自己負担するか悩んでいたときに、先輩からこの制度を勧められました。校閲を受けたことで自分の英文のクセを修正し、論文に独特な時制の用い方を意識的に区別できるようになったと思います。これまで支援を受けた3本の論文は、いずれも海外のジャーナルに採録されています。

校閲費支援制度を知ってから、国内にとどまらず広く海外も論文の投稿先として視野に入れるようになりました。英米文学研究の本場である欧米はジャーナルの数が豊富です。そこから自分の論旨にあった投稿先を検討、選択する経験を通して、研究者としてより自立し、主体的にキャリアを形成してゆく道筋が開けたと考えています。今後も、国内の研究への貢献も大切にしつつ、文学研究科が支援してくれる海外への投稿のチャンスを積極的に利用していきたいです。

*文学研究科が発行する雑誌『文学研究科研究論集』および『Journal of the Graduate School of Letters』では、大学院生の論文発表の場を設けています。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

投稿先の海外ジャーナルを選ぶ経験が主体的なキャリア形成の大きな一歩に。

※2019年4月より、言語文学専攻は人文科学専攻に統合され、西洋文学専修は欧米文学研究室に名称変更します。

学振の特別研究員に応募したい

申請書の書き方セミナー

文学院では、学術振興会特別研究員(DC・PD)になるための申請書類の書き方セミナーを開催しています。本セミナーでは特別研究員に採択された先輩の体験談や審査員経験を持つ教員の話聞くことができ、参加者満足度は毎年95%を超えています。

利用者の声

わかりやすく書ける3つのポイントを発見。誰もが理解できる書き出しで読み手の心を掴みました。



歴史地域文化学専攻※
西洋史学専修

博士後期課程3年

安酸 香織

YASUKATA Kaori

私の専門はフランスとドイツの間に位置するアルザスの歴史研究です。修士課程の入学ガイダンスで初めて学振特別研究員制度の存在を知り、2013年度のセミナーに出席しました。先輩方が明確な研究目的や詳しい研究計画をいきいきと語るのを見て、私自身も早い段階から計画的に研究に取り組むことができました。

ところが修士2年の春、いざ申請書を書き始めてみると、「わかりやすく」書くことの難しさに直面して再びセミナーに出席することに。そこで以下の3つの重要なポイントに気がつきました。すなわち、分野外の人が労せず理解できる書き出し、明日にでも始められそうなほど具体的な研究計画、そして将来性の感じられる自己アピールです。私の場合、領土問題という普遍的なテーマから書き始めて読み手の関心を引き付け、指導教員や多くの方からいただいたアドバイスを最大限に生かした結果、DC1に採用が決まりました。申請書の作成は自分の研究テーマを明確に、かつ客観視し、他の人にわかりやすく伝えるための訓練の一つです。皆さんも本セミナーで学振特別研究員への第一歩を踏み出してみませんか。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

学振特別研究員に採用され、経済的な不安なく研究に集中できます。

※2019年4月より、歴史地域文化学専攻は人文科学専攻に統合され、西洋史学専修は西洋史学研究室に名称変更します。

質・量ともに国内屈指の文献資料 学外でもアクセス可能な電子ジャーナル

- 北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約393万冊。
- 院生各自が研究に必要な図書を購入できる「院生図書費」を確保。
- 「電子ジャーナル」は、北大生ならいつでも・どこからでも閲覧とプリントアウトが可能。



▲文学部図書室は蔵書約29万冊、雑誌約4,700種を所蔵。

国境を越え世界の息吹を実感 専門研究を深める国際交流・留学制度

- 北海道大学では50カ国・地域、194大学等と大学間交流協定を締結(2018年4月現在)。
- 文学院独自の留学制度もあり、語学の習得や国際的な研究を後押し。
- 大学院生の交換留学先は、部局間交流協定校の英国のマンチェスター大学、ロンドン大学、サセックス大学、フランスのパリ・ディドロ大学、ドイツのデュースブルク・エッセン大学、米国のアリゾナ大学その他、大学間交流協定校ではストラスブール大学連合、ミュンヘン大学、モスクワ国立大学、国立台湾大学、オハイオ州立大学、ウィスコンシン大学マジソン校、マサチューセッツ大学、アルバータ大学、高麗大学校、ジュネーブ大学、極東連邦総合大学、ソウル大学校、サハリン国立大学、オウル大学など多くの大学への交換留学実績あり。

大学院生の経済的負担を軽減 TA・TF・RA採用者に給与を支給

- ティーチング・アシスタント(TA)制度 修士課程・博士後期課程対象
- ティーチング・フェロー(TF)制度 博士後期課程対象
- リサーチ・アシスタント(RA)制度 博士後期課程対象

豊かな環境が育む研究成果 栄えある受賞者が続々輩出

- 文学研究科修士の秋元由裕さんが、2017年度日本哲学会若手研究者奨励賞を受賞。
- 修士課程の前田美紅さんが第2回全道英語通訳コンテストで優勝。
- 博士後期課程の塩崎大輔さんが「Inkathon／インカソン」コンテストにて3位入賞。
- 博士後期課程の伊藤資浩さんが2017年度、SAGEー北大社会科学国際優秀論文賞を受賞。
- 博士後期課程の金恵瑛さんが平成29年度北海道大学大塚賞を受賞。
- 博士後期課程修了者の岡田貴憲さんが平成29年度中古文学会賞を受賞。
- 博士後期課程の松王香さんが第37回現代俳句評論賞を受賞。

人文学専攻

人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

新設

考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室の4研究室

北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに――。

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

■ 主な講義題目

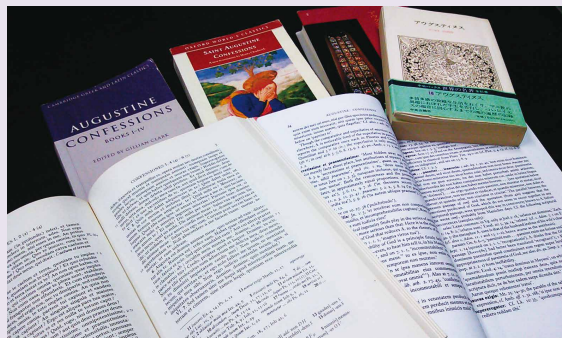
哲学倫理学研究室	■ 論理哲学文献講読 ■ 古代中世アリストテレス注解研究 ■ 現代規範倫理学・メタ倫理学
宗教学インド哲学研究室	■ ウバニシャッド研究 ■ 仏教文献講読 ■ 宗教学と死生学・生命倫理
日本史学研究室	■ 近世蝦夷地在地社会論 ■ 明治憲法体制と国家の運営 ■ 中世日本社会論
東洋史学研究室	■ 中国史の諸問題 ■ アラブ・イスラーム史研究 ■ 中東社会史研究
西洋史学研究室	■ 近代イギリス国家の構造と特殊性 ■ 近現代フランスの国家と社会 ■ アメリカ(史)研究の射程
考古学研究室	■ 考古学からみた資源・土地利用 ■ 先史文化の土器と社会 ■ 考古科学から読み解く人類活動
文化人類学研究室	■ 人類学の多様性 ■ 『自然』の人類学
芸術学研究室	■ 西洋美術史研究の現在 ■ 現代美術研究 ■ 芸術学研究報告
博物館学研究室	■ ミュージアムへの市民参画と評価の活用 ■ 文化財・美術作品の展示と展覧会の諸相 ■ 自然史系資料の維持管理と教育展示応用
欧米文学研究室	■ ロシア文学理論研究 ■ 西洋古典古代・古代キリスト教をめぐる諸問題 ■ 翻訳比較研究
日本古典文化論研究室	■ 上代文学研究 ■ 浄瑠璃研究 ■ 平安朝文学の諸問題
中国文化論研究室	■ 『易学啓蒙』研究 ■ 『論語注疏』研究 ■ 中国文学の諸問題
映像・現代文化論研究室	■ 映像・表現文化の諸問題 ■ 日本近代文化の諸問題 ■ 文芸理論の諸相
言語科学研究室	■ フランス語意味論研究 ■ 認知言語学研究 ■ 日韓対照研究
スラブ・ユーラシア学研究室	■ スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法 ■ ロシア帝国論 ■ 中東欧比較政治論
アイヌ・先住民学研究室	■ アイヌ民族の祭祀と文学 ■ 先住民族をめぐる法と政治 ■ 先住民考古学とアイヌ民族史

■ 修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○ 修士「傾向性本質主義と自然法則の形而上学的必然性」、「『場所』論の生成と構造－前期西田幾多郎研究－」 ● 博士「初期ルカーチにおける内在と超越の問題－ハイデルベルク美学論稿研究序説－」
宗教学インド哲学研究室	○ 修士「宗教学者ミルチャ・エリアーデの人間観」、「『ヴァジュラスーチャー・ウバニシャッド』研究」 ● 博士「サンスクリット叙事詩『マハーバータ』第13巻の文学研究」
日本史学研究室	○ 修士「南北朝期の朝廷・貴族社会と陰陽師」、「植民地官僚・持地六三郎の植民政策論」 ● 博士「明治期における榎本武揚の権力構造」
東洋史学研究室	○ 修士「北元漢語称号考」 ● 博士「近世福建漳州地域の陳元光信仰と宗族の形成」
西洋史学研究室	○ 修士「フランス第二帝政期国家祭典の研究：エクス市における実施例を中心に」、「近世『帝国イタリア』におけるトスカーナ大公位を巡る諸問題」 ● 博士「イギリス奴隷貿易廃止運動の歴史的意義－リヴァプールのウィリアム・ロスコーを中心に－」
考古学研究室	○ 修士「噴火湾北岸域における縄縄文前半の土器群の研究－豊浦町小幌洞窟遺跡・礼文華遺跡における土器群構成分析法の実践－」、 「クワとスキに関する考古学的考察」 ● 博士「埋葬環境の判別方法を用いた墓址の考古学的研究」
文化人類学研究室	○ 修士「大学生による出前授業『カタリバ』に関する人類学的研究」、 「二風谷のアイヌ・コミュニティにおける集合的記憶に関する文化人類学的研究－ニール・G・マンローの事例を通して－」 ● 博士「日本の社交ダンスにおける上演作品化に関する舞踏人類学的研究」
芸術学研究室	○ 修士「トンボをモチーフとしたエミール・ガレ作品に関する考察」、「1857-70年におけるクールベのレアリスム－『海の風景画』の造形表現と展示戦略めぐって－」 ● 博士「狩獵塔トール・デ・ラ・バラダの絵画装飾研究－16,17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連から－」
博物館学研究室	○ 修士「博物館と来館者のコミュニケーション・プロセスに関する研究－札幌芸術の森美術館を事例に－」、「池大雅の離合山水に関する考察」 ● 博士「江戸時代におけるツルの生息実態および人との関わり」
欧米文学研究室	○ 修士「村上春樹の『心』～『世界の終わり』とハードボイルドワンダーランド』とその露訳を素材に～」、 「クレジット・マン：F・スコット・フィッツジェラルドの『バット・ホビー・ストーリーズ』における再生産の技法」 ● 博士「ドストエフスキーとロシアにおける病の文化史」
日本古典文化論研究室	○ 修士「『土左日記』の研究」、「近松時代物浄瑠璃の研究」 ● 博士「町衆と文芸－近世初期における堂上と地下との関係をめぐって－」
中国文化論研究室	○ 修士「『猫時計』研究」、「漢代における『春秋穀梁傳』解釋の研究－廖平『穀梁古義疏』所引の劉向説を中心として－」 ● 博士「上古・中古漢語における完了・パーフェクト相の表現形式の変遷」
映像・現代文化論研究室	○ 修士「ジム・ジャームッシュ映画論」、「身体と機械との間－小酒井不木、江戸川乱歩におけるサイボーグ的想像力」 ● 博士「大江健三郎の研究－一九八〇年代以降の小説における自作リライトの手法－」
言語科学研究室	○ 修士「現代日本語における名詞修飾の形式と意味機能」、「低地ドイツ語における「不定詞+doon」迂言形－西ゲルマン諸語の迂言形と比較して－」 ● 博士「英語の可能構文：記述的研究」
スラブ・ユーラシア学研究室	○ 修士「ソヴィエト・キルギスの形成：政治エリートの役割を中心に」、「A.S. シシコフの言語思想と『ダフニス』の翻訳」 ● 博士「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの通商・産業比較－地政学危機の中の経済利害－」

哲学宗教学講座

研究領域としては、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。各分野の主要テキストと本格的に取り組むには複数外国語の習得が欠かせず、古典語が必要となる領域もあります。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐるさまざまな考察の吸収・継承・展開を目指して、不断に思考力・感性・表現力を磨くことが要求されます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらには生命・環境倫理学、AIや神経科学との学際的研究など現代の諸問題に関わる研究まで、多様な研究が行われています。



● 哲学倫理学研究室



● 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと世界中の幅広い地域にわたって、このような試みのための場と機会を提供しています。



● 日本史学研究室



● 東洋史学研究室



● 西洋史学研究室



● 考古学研究室 **新設**

文化多様性論講座

この講座では、「芸術学」、「文化人類学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。



●文化人類学研究室 新設



●芸術学研究室



●博物館学研究室 新設

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、ロシア、西洋古典、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析し評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語等のヨーロッパ系言語学、朝鮮語やアイヌ語を中心とするアジア系言語学、国語学、日本語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻繁に開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上の国におよそ5000の先住民が暮らしています。先住民学という研究領域は、ほかの学問領域と比べると比較的新しい研究領域ですが、研究課題は幅広く、先住民を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会開発など様々な課題が含まれます。研究の手法も課題ごとにそれぞれ独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座では、歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の教員が研究しており、アイヌ民族と世界の先住民に関する研究を領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室 新設

哲学宗教学講座

哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

村松 正隆 准教授

MURAMATSU Masataka

研究内容

個人の自由と共同体の秩序の緊張という永遠の課題を遥かに見据えつつ、フランス革命の時代から現代に至るフランスを中心とした西欧哲学の変遷を、同時代の自然科学や社会制度・教育制度との関係の中で研究している。



▲母子の声かけに代表される「声」が取り結ぶ人と人との間柄にも、今後の研究テーマとして関心を寄せている。



▲ソルボンヌ大学と、その前の広場に立つオーギュスト・コント像（学生撮影）

〈私〉という存在者を知り
幸福の形を増やす手がかりに

数あるフランス哲学の魅力の中に、人間の感情のあり方を大切にすることがあります。なかでもメヌ・ド・ピランは、〈私〉を軸に身体や感情とはどういうものなのかを丁寧に記述しようとした哲学者です。このピラン研究に魅せられた私が哲学を通じて皆さんに知ってほしい学びは、「幸福の形を増やす」ということ。〈私〉を〈私〉として特徴づける要素に理性や意志、そして感情があります。では、自分がどういう時にどんな感情を抱くのか、〈私〉がいかなる存在者なのかを意識的に自覚し、そこに派生する周囲との関係を整理して生活を考えていく。この一連の思考が幸福の形を増やす手がかりであると考えています。

文章スキルも磨く論文指導
「書き出す」一歩を後押し

修士課程における論文指導は、論証の構造はもとより先行研究の引用方法や接続詞、句読点に至るまで細やかに見ることをモットーとしています。修士論文の推敲と同時に人前に出しても恥ずかしくない文章能力に磨きをかけていく。社会人としても大いに発揮できるスキルの習得を念頭に置きながら接しています。他方、博士課程の院生にはテーマの選び方からより専門的な目線での懇切指導を心がけています。大作を書こうと思ひ入れが強いあまりに筆が進まないときは、「まず書き出してみよう」と背中を押したい。研究者共同体の一員になるまでの道のりをしっかりと見守ります。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

哲学宗教学講座

宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、新約聖書学、宗教学、死生学、古代インド宗教思想史、仏教学、仏教思想史などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

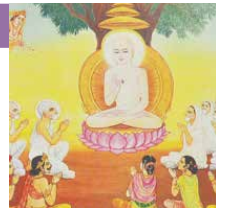
Lab.letters 教員からのメッセージ

細田 典明 教授

HOSODA Noriaki

研究内容

古ウパニシャッドと原始仏教を中心にして両者の成立・展開を考究し、古代インド思想史の構造を解明する。



▲写真はジャイナ教が説く「心的色彩と味・香・食感・人相」 Illustrated Uttaradhyayana Sutra (ed. by Up-Pravartaka Sri Amar Muni, Punjab, 1992) 仏教と同時期に生まれたジャイナ教の僧は禁欲・不殺生のベジタリアン。「現代の草食系男子を彷彿とさせませんか」と細田先生。



▲細田先生が話し手となった第17回北大人文学カフェのポスター画像より。

能からポップカルチャーまで、
現代に生きる「インド哲学」

人の数だけ思想があり民族の数だけ言語があるこの地球上で、インドの聖典ウパニシャッドと原始仏教は、歴史の風化を免れたいわば「思想史の源泉」。数千年の時を経てもなお21世紀の我々に影響を及ぼす力があり、その一端に触れることで技術の進歩目覚ましい現代において、理性や希望だけではくくりきれない生き方のヒントを見出せるのではないかと考えています。インド思想は仏教を通じて、およそ千五百年前から我が国に受容され、日本文化を育む大きな要因となってきました。古くは、雅楽・能・歌舞伎をはじめ、文学や芸術作品にインドの影響を見ることが出来ます。近代以降も多くの作家がインドを題材とした創作を行い、現代のポップカルチャーに及んでいます。インド哲学が現代に生きる意味と一緒に考えてみませんか。

インド哲学必須の語学力と
古典の真意を検索できる応用力

インド哲学をやる上で欠かせないサンスクリット語とバーリ語を指導できる国内の大学は十校もなく、道内は北海道大学の一校のみ。学生にはこうした必須言語と平行して、資料の正確な解読を指導しています。現代は検索機能が高度に進んでいますが、研究者たるもの「意味がわかる」レベルは卒業し、その単語が使われた時代背景や前後の文脈を考慮した上で適切な意味をくみとる応用力が必要です。現代と古典では単語の意味が同じとは限らず、むしろ両者の違いを認識したときに初めて、その先に新しい共通項という深遠な発見が皆さんを待っているのです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐々木 啓 教授 SASAKI Kei

■研究分野
新約聖書学、宗教学

細田 典明 教授 HOSODA Noriaki

■研究分野
古代インド思想史

林寺 正俊 准教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 准教授 MIYAJIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

教員紹介

蔵田 伸雄 教授 KURATA Nobuo

■研究分野
応用倫理学、現代英米倫理学、西洋近現代哲学(特にカント)

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学(特に現象学)、近代日本哲学、意識の科学

千葉 恵 教授 CHIBA Kei

■研究分野
ギリシア哲学、信の哲学

近藤 智彦 准教授 KONDO Tomohiko

■研究分野
古代ギリシア・ローマ哲学、倫理学

佐野 勝彦 准教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
非古典論理、哲学的論理学

村松 正隆 准教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学

歴史学講座

日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代についての、日本および大陸・半島・北方地域を視野に入れた実証的研究を特徴としており、これまで多数の研究者を輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史一次史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境には恵まれています。

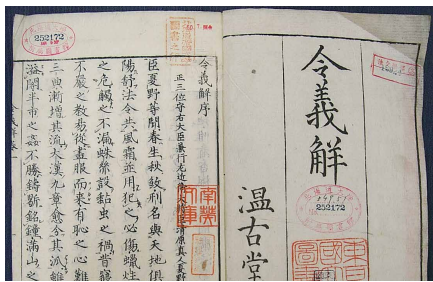
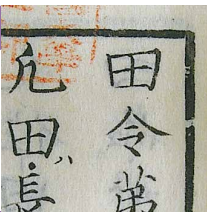
Lab.letters 教員からのメッセージ

小倉 真紀子 准教授

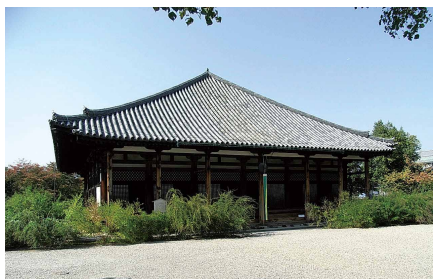
OGURA Makiko

研究内容

主に奈良時代から平安時代にかけて、日本が律令制と呼ばれる政治体制を取っていた頃の土地制度と財政について研究しています。また、古典籍の調査・研究にも関心を持っています。



▲ 本学附属図書館所蔵の版本「令義解」・寛政12(1800)年刊。「東京帝国大学旧蔵南英文庫本である点が興味深い」と小倉先生。



▲ 2010年の秋に訪れた奈良の元興寺。奈良国立博物館で開催される「正倉院展」の見学を含め、毎年の奈良訪問は欠かせない。(写真はどちらも小倉先生撮影)

世紀を超えて続く人の営み
「財を生む」土地に生きる

学生のころ、古代史のゼミで初めて担当した記事に「^{でんそ}田租」という地税に関する記述があったことから、土地を対象とした研究に関心を持つようになりました。現代人の感覚で古代の事象をとらえる危険性はよく指摘されるところですが、この土地制度や財政に関しては現代人も古代人もく土地に生きる>営みを続けてきたという点で一致をみます。現代の私たちにとって比較的近い目線で考えられる題材なのではないかと考えています。「財を生む道具である土地が古代の国家財政の中でどのように位置づけられていたか」を目下の研究課題として考究しています。

一点でも多くの史料に触れ
プロの勘を養う鍛錬を

歴史研究の出発点は史料にあります。日本史を学ぶ学生の皆さんはぜひ、在学中に一点でも多くの史料に接して頭の中の「引き出し」を増やしてください。文献から得られるような「知識」は後からでも付けることができますが、自分自身がその史料から何を読み取るかを意識的に自問するクセは、若いときから身に付けてほしいもの。それを続けていくことで、次の史料を読むときも研究のプロとしての「勘」が働くようになってくれます。本学の日本史学研究室は教員同士の交流が盛んで、親しみやすい雰囲気包まれています。ほどよい少数体制なので教員と学生の距離も近く、きめ細やかな目配りで皆さんの成長を応援できたらと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

歴史学講座

東洋史学研究室

東洋史学研究室は、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。地域は広大で使用する言語は多様です。漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語で書かれた膨大な史料がひっそりと皆さんの解読を待っています。縦書きや横書きで、竹簡・木簡・紙などに書かれた史料群が。

Lab.letters 教員からのメッセージ

吉開 将人 教授

YOSHIKAI Masato

研究内容

教育は、中国秦漢史と近現代史を担当しています。研究は、中国民族問題、中国近現代学術史の研究を、同時並行で進めています。



▲ 新旧の中国政治空間―北京紫禁城と人民大会堂



▲ 南越王趙佗の銅像と(河北省石家荘)

「レジスタンス」への眼差し

中国問題を理解する鍵は過去にあり

中国大陸で国家統合がいかにして始まったかという関心から秦漢時代について、中国世界を外と分けるものは何かという関心から民族問題について、そして知識人たちはどのように中国史を認識してきたのかという関心から近現代学術史について、それぞれ研究を進めています。

わたしのこうした関心の出発点は、大学3年生だった1989年、ラサでチベット人の蜂起を現地で目の当たりにし、帰国後、北京で知識人たちを中心に始まった民主化運動が政府によって弾圧されていった報道に日々接して、大きな衝撃を受けたことにあります。国家が形作られる中で社会にどのような矛盾が生じ、それをコントロールする国家制度や権力がいかにして形成されたのか、異なる地域がどのように包摂・排除されて今日の中国の枠組みが形作られたのか、そして知識人たちは「過去」の歴史をいかに「現在」に結び付けてきたのかという関心から、中国史を研究しているのです。

こういう関心を語ると、今の中国を研究すれば十分だろうと思うかもしれませんが、実は今の中国を生み出しているのは古代から続いてきた中国特有の歴史で、「現在」もまたその歴史的变化の中にあります。「過去」と「現在」をつなぐのは歴史学です。古代の英雄が好きでたまらないという人だけではなく、今日の中国に関心があるから中国史を勉強したいという人に、ぜひ研究室の門を叩いて欲しいと願っています。

中国をいかに読み解くか

北海道の視点が大きいなる刺激に

中国という国やそこで暮らす人々の思考は、表面的に接するだけでは理解不可能と思われがちです。しかし"わからない"と言って距離を置くのではなく、むしろ取り組みがいのある"謎"として、その本質に深く迫っていく楽しさが、実はそこに秘められているのです。中央から離れた北海道は、研究者の思考を縦横無尽に膨らませてくれる面白い場所。私自身、南中国の歴史や中国民族論について考えるうえで、本学で盛んな北方史研究を比較の視座として加えることができ、思いがけない収穫を得ました。これから北海道で中国史を学ぶ皆さんにも、きっと刺激的な新しい成果をもたらしてくれると確信しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

太田 敬子 教授 OHTA Keiko

■ 研究分野
中東社会史

佐藤 健太郎 准教授 SATO Kentaro

■ 研究分野
中東イスラーム史(特に西地中海地域)

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■ 研究分野
中国秦漢史、中国近現代史、中国民族問題

歴史学講座 西洋史学研究室

西洋史学研究室では、古代ローマ史、中近世ドイツ史、イギリスとフランスを中心とした近現代のヨーロッパ史、アメリカ史をカバーし、それらにおける政治史、経済史、社会史、文化史の研究をしています。また、ジェンダーやナショナリズムや移民といった新たなテーマにも取り組んでいます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

長谷川 貴彦 教授

HASEGAWA Takahiko

研究内容

福祉国家の歴史的形成、グローバル・ヒストリーのなかの産業革命、社会史・文化史の方法論的考察。



▲テムズ河の対岸からみた国会議事堂（ロンドン）



▲中世の面影が残るヨークの町並み（チャンブルズ）

時間と空間のクロスオーバーで 新たな歴史の姿を浮き彫りにする

歴史を学ぶおもしろさとは、時間と空間の二つの軸をもって物事をとらえていくところにあります。一つ一つの点を集積し線につなげて分析することで、新しい歴史の姿が見えてきます。私の専門は18世紀から19世紀にかけての近代イギリス史です。当時のイギリスは、いわば世界における近代化のトップランナー。産業革命以降、民間から自発的な市民結社が誕生するなど、社会の構造が大きく変化していきました。このような時代の変遷を政治や経済だけでなく文化という側面からとらえ直すのが、新しい「文化史」の方法です。文化史をめぐる研究は始まったばかり。みなさんの手で新境地を開拓することも夢ではない、現在進行形の学問なのです。

知識の集積にとどまらない 深い分析力がアピールポイントに

間口の広い歴史学の中から学生たちが選ぶ研究テーマはさまざまです。19世紀アメリカにおける「男性」のジェンダー史を追う学生もいれば、ポーランド史に取り組む学生もいます。本研究室では、研究対象となる国や時代は違っても互いに論じ合える場を積極的に提供しています。歴史学での学びは単に教養が深まるだけではありません。物事を客観的に見つめ、秩序立てて分類化し、分析する力を伸ばしてくれます。これはどの職場でも歓迎される力であり、みなさんの大きなアピールポイントとなります。こうした能力をジャーナリズムやマスコミの現場で発揮し、活躍してくれる卒業生が出ることも期待しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

歴史学講座 考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフが、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

小杉 康 教授

KOSUGI Yasushi

研究内容

発現的構造と状況的機能をキーコンセプトとして、日本列島を中心とした人類文化を考古学的に研究する。



▲礼文華遺跡（豊浦町）の考古学実習（発掘調査）風景。



▲考古学演習「土器を実測する」の授業風景。

定住する狩猟採集民 サステナブルな縄文が熱い

現在、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は世界文化遺産の登録を目指しており、世界でも「JOMON」研究への関心が高まっています。ではなぜ今、縄文が熱いのでしょうか。従来の人類史においては、狩猟採集・移住の生活から食糧生産を始める農耕・定住へ発展した、という考えた方が定説でした。ところが、縄文文化は「定住する狩猟採集民」という独自の文化で1万数千年も継続した文化であることが明らかになってきました。この従来の枠組みにおさまらない、サステナブルな豊かさを内包する縄文文化が、現代の我々にさまざまな示唆を与えてくれるのではないかと期待されているのです。

エコミュージアムの実践 人類史的時間感覚を養う

本研究室では考古学実習として人類遺跡の発掘調査を実施しています。噴火湾北岸域を中心として2000年からは有珠6遺跡（伊達市）で、2006年からは小幌洞窟遺跡（豊浦町）、2012年からは礼文華遺跡（豊浦町）で、夏休みの期間を利用してフィールドワークを続けています。2009年からはこれらの遺跡をサテライトとする「噴火湾北岸縄文エコミュージアム」活動も始めました。また、北大キャンパスの地下には続縄文・擦文文化の遺跡が広がっています。それらを人類遺跡トレールとして整備して、キャンパス・エコミュージアムの実現に向けた活動を、北大埋蔵文化財調査センターと連携して行っています。こうした千や万をもって年数を数える人類史の時間に触れる実習は「日常的には体感できない時間感覚」を養う場でもあり、その感覚をもって社会に貢献できるような学生を輩出できたら、と考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

砂田 徹 教授

SUNADA Toru

■研究分野
古代ローマ史

長谷川 貴彦 教授

HASEGAWA Takahiko

■研究分野
近現代イギリス史・歴史理論

村田 勝幸 教授

MURATA Katsuyuki

■研究分野
アメリカ史・アメリカ研究

山本 文彦 教授

YAMAMOTO Fumihiko

■研究分野
ドイツ中世・近世史

松畠 明男 准教授

MATSUSHIMA Akio

■研究分野
近代フランス史

教員紹介

小杉 康 教授

KOSUGI Yasushi

■研究分野
考古学、物質文化論、民俗誌考古学

高瀬 克範 准教授

TAKASE Katsunori

■研究分野
考古学、植物考古学

江田 真毅 講師

EDA Masaki

■研究分野
動物考古学、文化財科学

高倉 純 助教

TAKAKURA Jun

■研究分野
考古学、文化財科学

文化多様性論講座 文化人類学研究室

この地球上で人類は多様な文化を形作ってきました。文化人類学とは、この文化多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

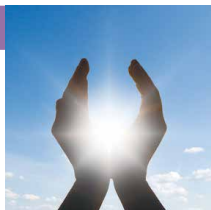
Lab.letters 教員からのメッセージ

小田 博志 教授

ODA Hiroshi

研究内容

自然と人間、生物多様性と文化多様性のつながりを捉えることができる枠組みを、「いのち」「自発性」「多様性」「脱植民地化」「平和」をキーワードに探求。そのために森林再生、土地に根ざした農耕と種子の保全などの具体例を、地球各地の現場を歩きながら、エスノグラフィーのアプローチで調べている。



南極基地でも宇宙でも エスノグラフィーの現場は無限

近年、注目が高まる「エスノグラフィー」とは、研究対象となる地域や集団の「現場」に立脚した方法論です。調査協力者が実際にどのような生活、活動をしているのか、研究者自身が現場に入り込み行動をともにすることで詳細を明らかにしていきます。南極基地でもスペースシャトルの中でも、人間が活動している現場ならどこでもエスノグラフィーの対象となる可能性を持っています。過去の指導学生が選んだ現場は高崎市のフィルムコミッション、世界自然遺産・小笠原諸島や被爆者団体など十人十色、各自が自分の中にある関心を掘り下げていきました。実践者であるエスノグラファーは、いわば社会の現場と学問研究の領域を行き交いする橋渡し役。活動する文化人類学者として持ち前の好奇心を存分に発揮できます。

採用担当者の心をつかむ現場体験 市場調査や防災対策にも応用可能

エスノグラフィーの強みは、現場で起きている事象を読み解き、論理性をもって体系化できるところ。これはそのまま就職活動の大きなアピールポイントになります。昨今は、米国に続き日本でも市場調査や商品開発にエスノグラファーを登用する企業が出てきました。大震災の経験などから学ぶ「災害エスノグラフィー」に代表されるように、今後社会でこの方法論の需要はますます拡大していくことを確信しています。研究と並行しながら人間的な視野を広げてくれる点でも、社会とあなた自身を結ぶエスノグラフィーの醍醐味が体感できるでしょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■ 研究分野
人類学

文化多様性論講座 芸術学研究室

芸術学研究室は、それぞれ美学、西洋美術史、現代美術史を専門とする三人の教員による研究室ですが、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的普遍的哲学的な方法と実証的個別的歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

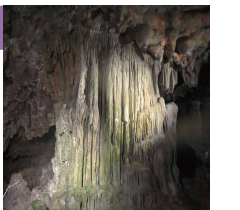
Lab.letters 教員からのメッセージ

浅沼 敬子 准教授

ASANUMA Keiko

研究内容

ヨーゼフ・ボイスやゲルハルト・リヒターといった、ドイツの現代美術家について研究してきました。20世紀のドイツの美術は、現実の政治社会と密接に関連しており、その研究は実にスリリングです。



映像の物質的魅力を探る

ここ数年は日本の、映像を用いたアート作品の調査、研究を行っています。1960年代、映画界でも物語性を排して立体化・空間化していく動きが起こりますが、この動きを察知した一部の美術家たちは、「彫刻としての映像」、「パフォーマンスとしての映像」ともいうべき、物質性や身体性と結びついた多くの映像作品を生み出しました。現在私がとくに重点的に調査しているのが今井祝雄作品など1960-70年代の関西でのそうした表現動向ですが、一方で、山城知佳子ら2010年代の現在において注目すべき映像作家の調査、記録化も行っています。

新しい表現活動にオープンに

大学教育で心がけているのは、学生さんに美術史の基礎知識を持ってもらうということです。その「基礎知識」には、私の専門領域である1950-60年代以降の現代美術/現代アートの歴史も含まれます。私の学生時代は、教えられる美術史は伝統的な絵画史に基づいていて、映像やインスタレーション、パフォーマンス、アートプロジェクトといった現実のアートシーンとは連動していませんでした。ですから、大学でより新しい表現の歴史を教え、研究することは、私の願いでありました。現代の表現は、過去の表現の歴史と深くむすびつく一方で、しばしば、身近にありながら私たちが見逃している現実との出会いを生み出します。そのような出会いを提供するのも大学の一つの役目ではないか、そう考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。



▲2014年開催の山城知佳子上映会+トークより(左=山城知佳子氏、右=東京都写真美術館学芸員・岡村恵子氏、同志社大学の菅野優香氏と共催)



▲今井祝雄「ジョイントッド・フィルム」(1973年)より
From the video installation artwork of Norio Imai "Jointed Films" (1973)

教員紹介

北村 清彦 教授 KITAMURA Kiyohiko

■ 研究分野
美学・芸術解剖学

浅沼 敬子 准教授 ASANUMA Keiko

■ 研究分野
現代美術史

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■ 研究分野
西洋美術史(イタリア美術史)

文化多様性論講座 博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察して行きます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

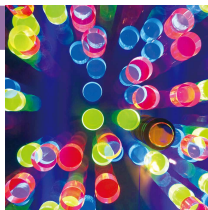
Lab.letters 教員からのメッセージ

佐々木 亨 教授

SASAKI Toru

研究内容

- (1) 博物館学／○ミュージアム経営改善のための評価システム構築
○ミュージアム展示のリニューアル
- (2) 文化人類学／○ミュージアムにおける先住民との共同に関する研究



▲広島平和記念資料館「対話ノート」コーナーは、記録と記憶をつなぐミュージアムの大切な場です。



▲北大総合博物館での展示リニューアル成果、展示制作演習の学生と佐々木先生（右端）。

ミュージアムの評価をサポート 地域や社会に求められる存在へ

ミュージアムに足を運び、「展示がよくわからない」、「ホスピタリティを感じられない」との気持ちになったことはありませんか。国や自治体の財政状況がきびしくなる中、文化事業への風当たりは強く、ミュージアムも自分たちの資源や魅力、そのアピール方法を見つめ直す時期に直面しています。私の研究は、そうしたミュージアムの評価システムを作る活動のサポートに主軸を置いています。評価に必要な要素は来館者数だけではありません。展示空間から感じる癒しやスタッフの対応などさまざまな要素が、アンケートや聞き取り調査によって見えてきます。これらに加えて、ミュージアムが地域に果たすべき社会的役割（ミッション）を再確認し、具体的な評価指標や手法を館と一緒に構築していきます。

フィールドは知のプラットフォーム 現場主義で人間的にも大きく成長

北海道大学には総合博物館というフィールドが身近に存在します。これまで、同博物館の展示リニューアルを大学院演習の一環として継続していて、学生たちは最前線に立ち、現場でしか味わえない経験を積んでいます。資料を提供いただく他学部の先生、展示業者など関係者とのコミュニケーションや相互のスケジュール管理、いずれも社会で求められる資質であり、若いみなさんにぜひ身につけてほしいスキルばかりです。ミュージアムは理系と文系の枠を越えられる自由なプラットフォームです。多くの人間と交わり、社会に必要とされるミュージアムづくりに関わるダイナミズムこそ、みなさんと分かち合いたい私の研究への原動力です。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

表現文化論講座 欧米文学研究室

ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。西洋古典文学・フランス文学・ロシア文学・英語圏文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文学史・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

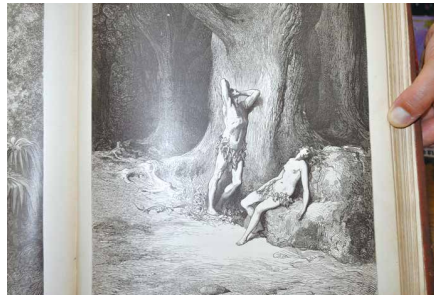
Lab.letters 教員からのメッセージ

瀬名波 栄潤 教授

SENAHA Eijun

研究内容

英米文学作品や映画を対象に、主にセックス・ジェンダー・セクシュアリティ研究の視点から研究や授業提供をしています。最近は、フェミニズムだけではなく男性性研究やクイア研究それに伝記研究にも興味を持ち始めています。



▲17世紀の古書、ミルトンの「失楽園」より。ギュスターヴ・ドレが想像力を駆使して描いた挿絵に目を奪われる。



▲人材教育に定評がある瀬名波先生は論文チェックも愛が伝わる赤鉛筆派。企業の採用担当者も喜ぶ期待の新人を送り出す。

「心動かす」メッセンジャーに よりよい明日に貢献する文学研究

文学とは「人の心を動かす」学問です。文学作品に心動かされた主観的な感動や問いかけを今度は他者に客観的な形で伝えていく。すなわち文学作品をきっかけに周囲へ「気づき」をもたらし、そのメッセンジャーとして自分を的確に表現する方法を学ぶこと。それは文学研究ならではの醍醐味です。私が議長を務めたことのある国際大学コンソーシアム「ProSPER.Net」（プロスパーネット）は、「持続発展教育（ESD）」を推進し、よりよい明日の実現を考えていく場です。文学研究も、芸術性だけでなく、現実問題と向き合い何ができるのかを考えていく時期を今迎えていると思います。

人の痛みを自分の痛み 多様性の美しさを学び、社会へ

私の専門分野はジェンダーとセクシュアリティの研究です。文学研究を志す学生にも「人の心の痛みを自分のものとする」視点を養い社会に貢献してほしいと呼びかけています。多様な生き方に価値を見出し、敬意を払う。そこに潜む悲喜憂苦を分析しています。これまでで一番心に残っている学生からの評価はこの三行。「瀬名波ゼミが一番厳しかった。一番勉強した。一番楽しかった」。学会でもひるまない資料収集技術や企業に太鼓判を押される自己表現など、当研究室での学びを自信として様々な場で活躍する学生を一人でも多く送り出すことが教育者たる私の喜びです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐々木 亨 教授 SASAKI Toru

■研究分野
博物館学、文化人類学

鈴木 幸人 准教授 SUZUKI Yukito

■研究分野
日本美術史、博物館学

教員紹介

大西 郁夫 教授 ONISHI Ikuo

■研究分野
ロシア文学

戸田 聡 准教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文献学、古代キリスト教史

瀬名波 栄潤 教授 SENAHA Eijun

■研究分野
英米文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

グリュネヴァルト・マティアス 特任准教授 GRÜNEWALD Matthias

■研究分野
外国語としてのドイツ語教授法、社会学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
アメリカ文学

宮下 弥生 助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英文学

竹内 修一 准教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、世界に冠たるわが国の文化遺産、すなわち、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『古事記』・『万葉集』に代表される上代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

Lab.letters 教員からのメッセージ

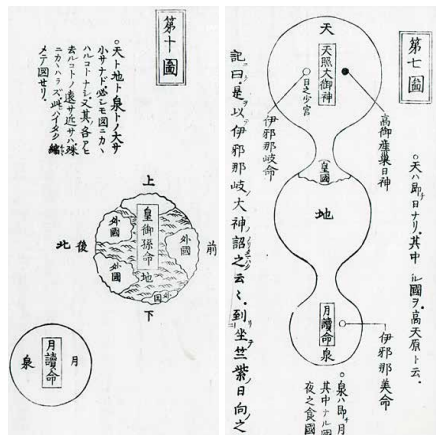
金沢 英之 准教授

KANAZAWA Hideyuki

研究内容

『古事記』をはじめとする上代文学をどう読めるか、またどう読まれてきたのか、読まれることで何をつくりあげてきたのか。現代の私達自身の問題として考える。

曰^ハ天地^ノ初^{ハジ}メ
名^ナ天^{アメ}之^ノ御^ミ中^{ナカ}
神^{カミ}次^{ツギ}神^{カミ}産^{ウミ}巢^ノ



▲『古事記』から受けとめられる世界像は読み解かれる時代に伴い変化する。写真は近世に出版された『古事記伝』の別冊図録（服部中庸「三大考」）。天・地・黄泉という神話的な世界（写真右）が、西洋から入ってきた自然科学の影響を受け、太陽・地球・月として位置づけられた。

『古事記』を古典としてきた日本人の輪郭を描き出す

日本の代表的な古典である『古事記』と『日本書紀』、どちらも漢字で記されたものですが、平仮名・片仮名がまだない時代に「漢字を用いて日本のことばを書こうとした」試みが見られる前者と、国際的な公用語である漢文を使った後者とは大きく性格が異なります。国文学者の本居宣長は「事」と「ことば」と「心」は一つである、という考えから『古事記』を高く評価し、後の国文学に大きな影響を与えた注釈書『古事記伝』を著しました。以来、『古事記』を古典として持つことで形づくられてきた日本人とは何か。現代の私たちがその意味を考え、日本人の輪郭を描き出す取組みは、大学で「学問」として古典を研究する意義と密接に結びついています。

客観性と科学性を大切に
授業で研究世界の入口を体感

『古事記』研究を始める以前は海の生態学を専門としていましたが、＜生物と自然＞から＜人間と自然＞、そして＜人間と文化＞へと視点を広げていくうちに現在の『古事記』研究が専門に。文理の枠を超えても、客観性と科学性が求められる研究手法に変わりはないと実感しています。北海道大学は学生の学習意欲が高いため、研究者であり教育者である我々には理想の環境です。授業ではいつも対象となる研究分野の最新の課題を提供し、奥深い研究世界の入口を体感してもらえるような時間を共有できたらと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

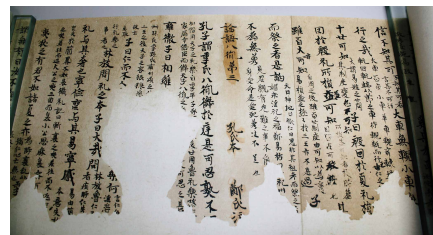
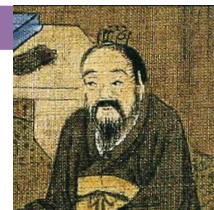
Lab.letters 教員からのメッセージ

弇 和順 教授

YUHAZU Kazuyori

研究内容

- (1) 漢代思想の研究
- (2) 『論語』解釈の研究
- (3) 儒学・経学の研究



▲唐の時代に書かれた論語写本。12歳の学生が写したとされる。



▲明の時代、『列女伝』の内容に基づいて描かれた絵図。

「子曰わく」の読みに正解なし
注釈から知る中国思想の流れ

中国古代の思想家・孔子の言葉を記した『論語』。2千年も前から読み継がれてきた古典ですが、その読み解き方に「正解」はありません。孔子自身の言葉が簡潔であるため、学者たちは様々な孔子像を思い描き、注釈に頭を悩ませてきました。一般に注釈というと、本文の補助的な役割を果たすものと思われがちですが、実はこの注釈も時代が変われば自ずと変化してゆきます。本文に劣らず思想や学問の流れを知るための重要な研究対象となるのです。時を経ても様々な解釈の可能性を秘めた「懐の深さ」は、『論語』を筆頭とする中国古典共通の魅力といっても過言ではありません。

良妻賢母、悪女の決断
人生の「選ぶ力」を育む教材に

中国古代の女性伝記集『列女伝』の授業では、主人公の女性たちが迫られた決断の瞬間に焦点を当て、学生たちが「自分だったら」と考察できるような工夫を盛り込んでいます。人生は決断の連続です。中国古典の奥深さに触れながら、自力で考え決断する力を養ってもらえたらという思いで教壇に立っています。また全学教育の論文指導では、単なる読書感想文ではないレポートが書けるようになるまでマンツーマンの指導を行っています。「あの論文指導がきっかけとなって中国思想への興味がわきました」という卒業生からの声も届いています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

後藤 康文 教授 GOTO Yasufumi

■研究分野
平安時代物語文学

富田 康之 教授 TOMITA Yasuyuki

■研究分野
近世演劇

金沢 英之 准教授 KANAZAWA Hideyuki

■研究分野
上代文学

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■研究分野
中世説話文学

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■研究分野
中国古代思想、易学思想史

武田 雅哉 教授 TAKEDA Masaya

■研究分野
中国文化、文学、芸術

弇 和順 教授 YUHAZU Kazuyori

■研究分野
中国古代学術思想

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

阿部 嘉昭 准教授

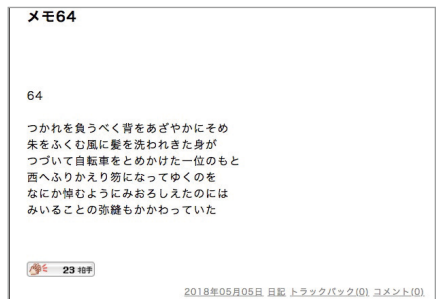
ABE Casio

研究内容

日本映画における俳優身体、話法、映画技法の研究。マンガ、音楽（ロック／Jポップ）、アニメ、写真などの構造分析。詩、短歌俳句を中心にした文学研究、創作論。メディア論。



▲これまでに手がけた評論は映画、音楽、コミック、サブカルチャー、お笑いなどの脱領域。自身の詩集も出版している。



▲詩や書評が投稿されている「ENGINE EYE 阿部嘉昭のブログ」。阿部先生の世界観を知ることができる。

作品特有の構造に分け入り 畏怖の念を持って肯定する

映画や音楽、マンガ、サブカルチャーなどのアートを「好き嫌い」で論じる消費的な行為は容易ですが、作品評論の域にまで深めていくには仔細な把握が必要です。「作者はどうしてこういう風に表現したのか」音楽ならば歌詞やコードを、マンガならばコマ割りをと、その作品特有の物質的構造に分け入ることができたときはじめてその作品を真に対象化できたという官能にも近い喜びが待っています。皮肉なことにたとえば声の描写などをしてゆくと「どれだけ言葉が追いつけるか」という問題が生じます。作品に対し言葉が無効になる瞬間が訪れる。そうした畏怖の念をもちながら、しかも作品を肯定していくことが、日本の表現の文化状況全体を高めることにつながるおもっています。

文学的なものがもたらす幸せ

詩的な直感力が研究に独自性を

実学一辺倒の社会では軽視されがちな＜文学的なもの＞は、円滑なコミュニケーションに貢献したりとさまざまな幸せをもたらします。そのなかのひとつに作品を評論するだけにとどまらず、自らが実作者となることも含まれています。ぼく自身、過去に指導していた学生たちとメールを交わす中で詩作を再開させた経緯があり、学術研究においても詩的な直感力が従来の路線にない独自性を増すとかんがえています。ぼくの指導は話し言葉主体のライブに近く、事前に用意した草稿にのっとなって、という形式とは正反対。ですが、こちらの速射的な思考や引用する膨大な固有名詞が浮遊する空間の中から、みなさんが自力で自分にとっての指針や思考方法を見つけてくれたらと期待しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語、朝鮮語、アイヌ語、日本語（国語学・日本語学）を中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

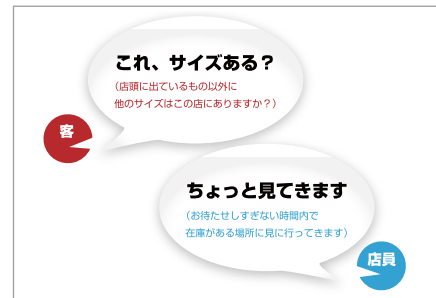
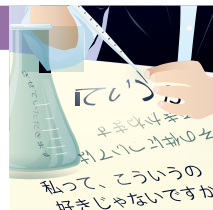
Lab.letters 教員からのメッセージ

加藤 重広 教授

KATO Shigehiro

研究内容

日本語の文法（特に修飾現象、品詞体系、助詞、時制と相、モダリティ等）と語用論（談話標識、世界知識、記憶モデルと文脈、ダイクシス、意味計算）、言語学基礎理論・社会言語学・心理言語学



▲言外を読み取りあう客と店員の会話一例

「ちょっと=少量」ではない 言外を読み取る日本語の深層へ

客「○○という本はありますか?」店員「ちょっと...」。日本語を母語とする者なら、この会話で店員が言外に「ありません」と答えていることがわかります。話し手が「言わない部分」を聞き手が自発的に読み取っているからです。我々が発話していることばのやりとりは、あくまでも氷山の一角。互いにどう読み取っているのか、そこにどのような規則性や論理性があるのかを明らかにしていくのが、語用論の面白さです。地方方言が部分的に標準語化して生じる「ネオ方言」や、「なう」に代表されるIT社会独得の表現など研究対象は無尽蔵。表立って使われることばを入口に日本語の深層に迫ります。

二重敬語は「間違い」か?

自力で考える積極性を養う

よく「言葉の乱れ」として挙げられる「ご試着なさいますか」などの二重敬語は、本当に「間違い」でしょうか。私はその背後に「より丁寧に表現したい」という話し手の意図を感じ、「間違いだ」と決めつけるのこそ誤りだと感じています。ことばはつねに「揺れるもの」。必要とされる表現が残り、さらに細かく発展していくものなのです。豊かな研究生活を送るには、本人の自主性が一番の推進力。もちろん指導教員として学会発表や論文投稿での後方支援も惜しみませんが、本人の積極性に勝るものではありません。言語学の分析を通じて論理的な思考力を磨き、物事を深く理解する力を養っていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

池田 証壽 教授 IKEDA Shoji

■研究分野
国語学、国語史

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■研究分野
英語学、認知言語学、意味論

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■研究分野
言語学、日本語学、語用論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

佐藤 知己 教授 SATO Tomomi

■研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

李 連珠 准教授 LEE Yeonju

■研究分野
韓国語学、言語学、日本語学、音声学

清水 誠 教授 SHIMIZU Makoto

■研究分野
ドイツ語学、ゲルマン語学

藤本 純子 助教 FUJIMOTO Junko

■研究分野
ドイツ語教授法、異文化コミュニケーション

教員紹介

応 雄 教授 YING Xiong

■研究分野
映像表象論

阿部 嘉昭 准教授 ABE Casio

■研究分野
映画・サブカルチャー研究、詩歌論

押野 武志 教授 OSHINO Takeshi

■研究分野
日本近代文学、表象文化論

水溜 真由美 准教授 MIZUTAMARI Mayumi

■研究分野
近現代日本思想史、ジェンダー論

中村 三春 教授 NAKAMURA Miharuru

■研究分野
日本近代文学、比較文学、表象文化論

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

岩下 明裕 教授

IWASHITA Akihiro

研究内容

ユーラシアをめぐる国境問題がどのように国際政治理論を再構築できるかを日々、考えている。



▲サンディエゴのアメリカ・メキシコ国境に立つ岩下先生。人文社会系の部局を横断する境界研究ユニット（UBRJ）のまとめ役。



▲一世紀以上も前に樺太（サハリン）に設置された「旧日露国境標石」

国境問題の解決を目指し
ボーダースタディーズを先導

地球上に我々人類が引いた「国境」には、政治、経済、外交などの国際関係から国境地帯に暮らす住民の日常までさまざまな問題が関わっています。国境線をどこに引くのか、日々の国境線管理をどうするのか。こうした国境問題が多い旧ソ連領やアジアではこれまで、比較検討できる体系的なネットワークが整備されてこなかったのが現状でした。そこで北海道大学が中心となって「ボーダースタディーズ」（境界研究）のネットワーク化に着手。世界の事例に学ぶだけでなく、根室市、対馬市、与那国町、小笠原村という領土問題を抱える諸地域の首長を招いた国境フォーラムやセミナーも積極的に行っています。

北に集う世界の境界研究者、
惑わされない自分になる

世界のグローバル化が進み、国境研究も脱・中央集権の時代へ。北海道に集まる世界の境界研究者との交流を通じて、メディアには載らないリアルな最新情報を手に入れることも可能になりました。一例を挙げると、中央から見る隣国のイメージと国境地帯の住民が相手に向けるまなざしには天と地の開きがあり、後者のほうがはるかに冷静で実利的といえます。これから境界研究を目指す皆さんの中にも、もっともらしい情報に惑わされている自分はいませんか。オリジナルの情報を出発点に、自分の頭で考える姿勢を大切にしてください。自分の選択に責任と覚悟を持てる研究者へと成長していく皆さんを応援しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発など、先住民族を取り巻く様々な課題の研究を行います。歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の視点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

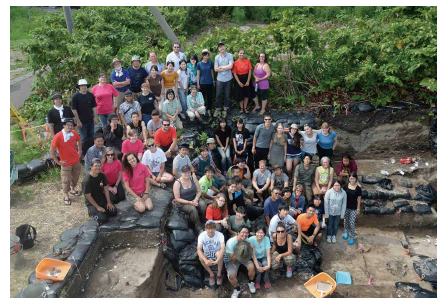
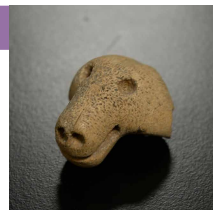
Lab.letters 教員からのメッセージ

加藤 博文 教授

KATO Hirofumi

研究内容

文化的多様性の起源について人類史的な視点からの国際共同研究を進めている。また北海道や世界各地の先住民族の考古遺産や文化的景観を取巻く課題解決を目指して、先住民族考古学の理論と実践に取り組んでいる。



▲礼文国際フィールドスクール



▲遺跡でのアイヌ風の祖先への祈り

誰と共に、誰のために歴史を語るのか
大地からのメッセージに耳を傾ける

歴史の語り口は、一つではありません。先住民考古学では、世界各地の先住民の歴史文化遺産の保護を通じて先住民族の権利や文化遺産の所有権についても議論します。現代考古学に色濃く残る西洋的視点と理論を批判的に検証し、口承伝承のような非物質的文化要素も歴史的物語として活用を試みます。この研究手法は、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどではすでに一般的ですが、日本ではほとんど知られていません。北海道は、先住民族であるアイヌ民族が長く暮らしてきた土地です。彼らの祖先が残した歴史文化遺産が数多く残されています。大地に耳を傾け、誰と共に、誰のために歴史を語るのか、という新たな枠組みづくりを進めています。

地域に基軸をおいた研究
国際フィールドスクールに学び世界とつながる

オックスフォード大学など7カ国の大学と連携した国際先住民研究拠点を構築する事業を実施中です。この国際共同プロジェクトでは、海外の大学でのワークショップやセミナーの開催、大学院生や若手研究者の海外研究機関への派遣を行い研究者育成に取り組んでいます。毎年20名を超える海外の大学院生や若手研究者が北海道でのフィールドスクールに集い交流し、共同研究に取り組んでいます。北海道でアイヌ民族の歴史文化遺産の課題を考える先住民研究の道は、世界各地の先住民研究と繋がっており、私たちを地球規模の課題へと導いてくれます。「自分自身の目で見、自分自身の心で感じる人は、とても少ない。」（Albert Einstein）

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

岩下 明裕 教授 IWASHITA Akihiro

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝国史

ウルフ・デイビッド 教授 WOLFF David

■研究分野
ロシア史、冷戦史

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

田畑 伸一郎 教授 TABATA Shinichiro

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済、比較経済体制論、北極域研究

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、総合人類学、シベリア人類史

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

北原 次郎太 准教授 KITAHARA Jirota

■研究分野
アイヌ宗教文化、アイヌ語、口承文芸

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語

長沼 正樹 准教授 NAGANUMA Masaki

■研究分野
先史学、比較考古学

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア史、日本古代史

山崎 幸治 准教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

近藤 祉秋 助教 KONDO Shiaki

■研究分野
アラスカ先住民学、宗教人類学、狩猟研究



天津科技大学では情報処理を学び、社会人時代はSEや通訳として活躍。漢字コードの開発も手がける池田先生の研究内容に「情報処理という接点を見出した」と話す。

大学院進学のを夢を叶えて 字書研究者のスタートラインに。

言語文学専攻 言語科学専修 博士後期課程3年（所属は2018年度以前の組織のものです）

李 媛 LI Yuan

日本留学で育んだ大学院への憧れが、
現存する最古の漢字字書に出合って北大で開花。
国内外の学会発表を重ね、研究者の階段を一步步
確かな足取りで上っています。

あきらめきれなかった大学院 助言で知った最古の漢字字書

天津科技大学3年生のとき、交換留学生として1年間京都で暮らしました。充実した研究生生活を送っている大学院生の友達を見ているうちに、「自分も専門的な研究をしたい」と思うようになりました。でもその当時は踏ん切りがつかなくて一度社会人になりましたが、やはり自分の気持ちに嘘はつけなかった。小さい頃から漢字が好きで、漢字研究ができることをネットで探しているうちに、北大の池田証壽先生のサイトにたどり着きました。

当初は漢字の簡略化を研究テーマにするつもりでしたが、池田先生から「漢字研究をしたいのであれば、より古い資料から始めたほうがいい」と勧められて、現存する日本最古の漢字字書『篆隸万象名義（てんれいばんしやうめいぎ）』という現在のテーマと出会うことができました。

閲覧申請と調査準備を入念に 日中字書交流の歩みをたどる

私の場合、文献調査は現存する原本の複製本と近世写本を比較するところから始まります。見たい資料が貴重であればあるほど、手続きや準備は入念にしなければなりません。なかには閲覧申請書を事前に提出していても、その場でもう一度質疑応答を求められたこともありました。いつでも答えられるように研究目的や閲覧理由をしっかり整理しておく必要があります。

資料の閲覧時間は限られているため、あらかじめ調査台帳に調査ポイントを整理しておきます。私も最初は苦労しましたが、閲覧経験を積むたびにポイントがわかるようになりました。将来は研究職志望です。平安時代から現在まで続く日中の字書交流史に魅せられた研究者の一員として、池田先生の教えどおり“手間を惜しまず丁寧に”研究を続けていきたいです。

PROFILE

1983年中国寧波省生まれ。天津科技大学情報処理学科卒業後、広島でエンジニアとして勤務。
その後北京・上海で働き、2011年4月から北海道大学に留学。
平成27年度（第10回）漢検漢字文化研究奨励賞、
2016年度 人文科学とコンピュータシンポジウムで最優秀論文賞受賞。



ここをチェック！

入試対策

柔軟な研究テーマ選びが真実への近道に

Q. 李さんが池田先生の研究室に受け入れられるまでのプロセスを教えてください。

A. 窓口は文学研究科の国際交流室です。池田先生のもとで学びたいという内容のメールを送ったらすぐに先生からの最初の課題、論文の英文翻訳の課題が送られてきました。締切まで時間がなくて焦りましたが、なんとか集中して締切を守ることができました。次に自分のやりたい研究テーマを2000～4000字で提出し、そこからは個別のアドバイスをいただけるようになりました。
現在行っている研究は北大入学前に希望していた研究テーマからズレたように見えるかもしれませんが、実は古字書の研究をしているうちに漢字簡略化の根拠も見えてくるようになりました。研究も人生も誠実に向き合っていればそのうち真実に近づけると信じて、焦らずに歩いていきたいです。

『研究成果を社会に役立てること』池田先生の教えを胸に、
自分なりの研究を進めていきたいです。

Reserch and Study History 〈修士課程から現在までの歩み〉

2011	〈4月〉 研究生として入学	
2012	〈4月〉 修士課程入学 〈10月〉 台北国立故宮博物院・国家図書館で『篆隸万象名義』近世写本の文献調査	 篆隸万象名義第3帖28巻・言部の冒頭部分。高山寺本の原本画像と解読後ウェブで公開するテキストとの対照
2013	〈4月〉 修士課程2年 〈7月〉 北海道大学国語国文学会で『『篆隸万象名義』の本文データベースの構築』を発表（北海道大学） 〈10月〉 宮内庁書陵部で『新撰字鏡』の文献調査	 文学研究科の「日本語添削プログラム」を利用して、発表原稿を練り上げていました。
2014	〈1月〉 修士論文「篆隸万象名義とそのデータベース構築に関する研究」提出 〈4月〉 博士後期課程に進学 〈9月〉 台北国立故宮博物院・国家図書館で『篆隸万象名義』近世写本の文献調査 〈10月〉 池田先生・先輩と日本語学会で「平安時代漢字字書のリレーションシップ」発表（北海道大学） 〈11月〉 訓点語学会で「埋字と脱字 一篆隸万象名義の提出字数をめぐる問題一」発表（東京大学）	
2015	〈4月〉 博士後期課程2年 〈5月〉 池田先生・先輩と人文科学とコンピュータ研究会で「平安時代漢字字書総合データベースの拡張と和訓対応」発表（国会図書館・東京） 富士ゼロックス在日外国人留学生研究助成金に採用される 〈8月〉 漢文仏典言語国際シンポジウムで「關於利用日本資料的篆隸万象名義的本文研究」（北海道大学） 〈9月〉 訓点語学会講習会（東京大学） 台北国立故宮博物院・国家図書館で『篆隸万象名義』近世写本の文献調査 9th International Conference of the European Association of Chinese Linguisticsで「The Creation of a Tenrei Bansho Meigi Database and its Textual Study」発表（ドイツ・シュトゥットガルト大学）	 人生初のヨーロッパ行きで、文学研究科の出張旅費支援制度（共生の人文学）を使わせてもらいました。
2016	〈3月〉 中国国家図書館で『篆隸万象名義』近世写本の文献調査。博士後期課程に進学 平成27年度（第10回）漢検漢字文化研究奨励賞受賞 〈4月〉 博士後期課程3年	“丹念で精密な調査態度と発展性に富む点”を評価していただき、うれしかったです。

「大学院、特に博士後期課程に進む場合は年間スケジュールを意識することが大事です」と語る李さん。大事な学会の参加や頼りにしたい助成金の申し込みなど、「気がつけば締切が過ぎてしまった!」ということがないように、先生や先輩たちが声をかけてくれて幾度も助けられたと振り返る。

※本項は2016年5月現在のデータで構成しています。

人間科学専攻

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

実績

グローバルCOEなど大型研究プロジェクトを牽引した世界レベルの研究実績が揺るがぬ土台に。

人間と社会に関する
総合的な学びに
科学的にアプローチ。

実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法でアプローチ

■ 主な講義題目

心理学研究室	■ 認知行動科学の問題と方法 ■ 認知神経科学の問題と方法 ■ 音楽心理学の問題と方法
行動科学研究室	■ 環境社会心理学 ■ 比較認知科学の最前線 ■ 数理モデルの理論と方法
社会学研究室	■ 計量的分析の基礎と応用 ■ 東アジアの比較宗教社会学 ■ The Spirit Level: Thinking About Inequality
地域科学研究室	■ 環境と地域の社会学的研究 ■ 生物多様性保全と人間社会 ■ 経済地理学概論

■ 修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○ 修士「聴衆の有無がアンサンブル演奏に与える影響：演奏者間のコミュニケーションとパフォーマンスに焦点を当てて」、 「運動イメージを使ったニューロフィードバックが視覚誘導運動の学習に与える影響」 ● 博士「マウス運動野における運動準備の神経メカニズムの研究」
行動科学研究室	○ 修士「言語と規範の帰納的学習において認知的バイアスがもつ機能－統計的推論の観点から－」、 「都市観光資源の省エネルギー化に対する国内外観光客の支払意思額とその規定因：函館夜景LED化サポートに関する社会調査」 ● 博士「連結による協力問題解決メカニズムの解明」
社会学研究室	○ 修士「学歴達成の規定要因分析－『中国総合社会調査CGSS-2013』に基づいた計量研究－」、 「寺院仏教の社会的機能に関する研究－子どもの社会化と社会関係資本の視点から－」 ● 博士「香港におけるウェルビーイングと宗教・福祉、ソーシャル・キャピタル、主観的幸福感の視点から」
地域科学研究室	○ 修士「里山における土地の重層的利用に関する研究－苦東地域を事例として－」、 「広西チワン族自治区におけるブドウ生産の発展－洛江鎮を例にして」 ● 博士「広域的に分布する外来哺乳類における外来種管理研究：アライグマ管理の担当者における課題と管理の進展に向けて」

心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行っています。具体的には、知覚、注意、記憶、学習、発達など、長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズムについての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ・マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先導的研究を進めています。協力行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもちどう変化しているかを個人との関係から記述し因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想すること、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析できることを目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としながら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するとともに、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代社会が抱える多様な問題について、人間社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野を基軸として、「地域の視点」に立った現場での調査を実施し、互いに議論を交わすなかで、「地域」の理解と考察を深めます。各分野の基礎的理論からフィールドワーク技法、分析法、実社会への応用までを、野外実習を交えながらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座

心理学研究室

心理学研究室では、知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

川端 康弘 教授

KAWABATA Yasuhiro

研究内容

「色彩」「映像」「見ることの熟達化と適応力」「視覚システムのダイナミズムと可塑性」等に関わる心理学的研究を行っています。



▲冬山登山者の越冬生活は白の識別感を高める？



▲日常的な対象物の配色の好みや文脈や場面に応じた配色の好みについて評価してもらう実験の風景です。実験では被験者の評価だけでなく、視線の動きなどを計測することもあります。

文学的な比喻か現実か？
「違ったものの見方」を検証

「見る力」とは、世界を認識する力でもあります。生来備わっている知覚システムに加え、各自の環境や経験に応じて認知能力は人間の成長とともに向上していきます。ある対象物について「違ったものの見方がある」という表現がよく使われますが、実際に私たちは同じ対象物を各自の見る力に応じて「違ったもの」として見つめているのではないか。このことを明らかにしていくため、当研究室では日常生活の活動と結びつけながら、色彩や情景の再認に関する研究を行っています。所属する学生は他大学からの編入組も多く、色彩への関心から専門的な資格を取るなど充実した研究生活を送っています。

脳の融通性を実験で明らかに
効果的な組立てをアドバイス

色覚障害を持つ友人とヒマラヤへ登山に行った時のことです。どんな時でも彼のほうが遠くをよく見渡せることに気づき、帰国後の検査で彼が優れた解像度を持っていることを突き止めました。これはもしかすると色処理に使わない脳のリソースを解像度に振り分けるよう、脳が"融通を利かせた"結果だとも考えられます。こうした疑問を客観的かつ論理的に解明するために、私たちは実験という手法を用いています。どんな設定でどういう対象者に何をしてもらうのか、実験方法の組立ては研究の成否を握る重要な要素です。学生たちが決めた研究テーマの魅力を曇らせないように、これからも効果的な実験方法をアドバイスできたらと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

行動科学講座

行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、指導教員以外からも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

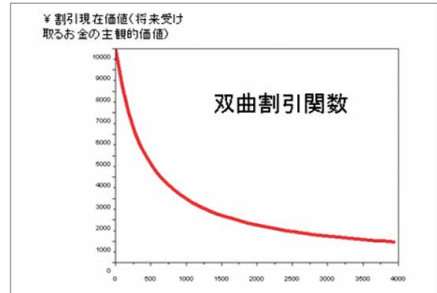
Lab.letters 教員からのメッセージ

高橋 泰城 准教授

TAKAHASHI Taiki

研究内容

意思決定の仕組みを調べるため、行動経済学的手法と神経生物学的手法を組み合わせた神経経済学と呼ばれる分野の研究を行っている。行動分析のために数理物理学的なモデルを応用している。



▲時間割引関数。縦軸がものの価値、横軸がもらえるまでの日数。双曲割引では、主観的な割引率が遠未来において小さく、現在付近において大きい。チョコを金利に置き換えると預貯金の場面にも応用できる。



▲時間の条件が変わると心も変わる？チョコ問題、あなたの答えはどうでしたか。

10年後の1個と1週間後の2個
その選択に矛盾はないですか？

二択の質問です。10年後に1個のチョコをもらう選択肢Aと10年プラス1週間後に2個もらう選択肢B、どちらを選びますか。続けて第二問。今すぐ1個のチョコをもらう選択肢Cと今から1週間後に2個もらう選択肢Dでは？実はこの2つの質問は「10年後」の有無を除けばあとは同じ。忍耐強く待つB派の人はやはりDを選び、その逆もしかりと考えがちですが、実際には両者が入り乱れた回答も出てきます。一般には、ものの価値に対する主観的な割引率が遠い将来になるほど小さく（待てる）、現在に近づくほど大きくなる（待てない）。神経経済学ではこれを「時間割引」と呼び、私は左図のような一定の関数で表現しています。

行動経済学と神経科学の融合
階層も飛び越える橋渡しの学問

人間は欲求と行動が一致しているとする行動経済学と、心と脳の間を関係を考える神経科学。どちらも自分たちの枠組みだけでは説明しきれない問題にぶつかった時が、両者を融合した神経経済学の出番です。自然科学の中でも上位の階層にある対人相互作用を、神経伝達物質といったミクロの階層で読み解いていく、こうした階層にとらわれない点にも新鮮な魅力を感じています。北海道大学は経済学のエキスパートが多く、理学部や医学部との共同研究も実現できます。関心をお持ちの方は生物学、心理学、経済学の基本知識をこの順に身につけておく専門研究への移行もよりスムーズになるでしょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

安達 真由美 教授 ADACHI Mayumi

■研究分野
音楽心理学(聴取、演奏、感情・表現、コミュニケーション、発達)

川端 康弘 教授 KAWABATA Yasuhiro

■研究分野
認知心理学(色覚、感性、知識、熟達)

田山 忠行 教授 TAYAMA Tadayuki

■研究分野
視覚科学、時間心理学、心理物理学

和田 博美 教授 WADA Hiromi

■研究分野
発達神経行動毒性学

小川 健二 准教授 OGAWA Kenji

■研究分野
認知神経科学(特に運動学習や社会認知)

河原 純一郎 准教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■研究分野
認知行動科学(注意、記憶、魅力、ストレス、産業応用)

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■研究分野
認知心理学(クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ)

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■研究分野
社会心理学、文化心理学

高橋 泰城 准教授 TAKAHASHI Taiki

■研究分野
行動科学、神経経済学

高橋 伸幸 准教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■研究分野
社会心理学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■研究分野
比較認知科学

竹澤 正哲 准教授 TAKEZAWA Masanori

■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■研究分野
応用統計学

社会学講座

社会学研究室

社会学研究室に現在在籍する教員は、現代宗教・アジア地域社会・宗教とウェルビーイング・ソーシャル・キャピタルなどに着目した研究、リスク社会の中の孤立感・社会関係資本の役割・ウェルビーイング全般に関する研究、社会階層・学歴・家族・労働市場などに着目した社会的不平等に関する研究を行っています。

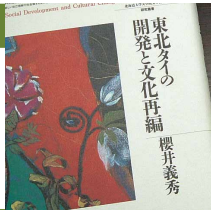
Lab.letters 教員からのメッセージ

櫻井 義秀 教授

SAKURAI Yoshihide

研究内容

日韓中の宗教文化、タイの地域社会開発を中心に研究しています。近現代社会の動向は宗教文化の理解なしでは済まされませんし、宗教文化を理解するためには当該社会の動向を知る必要があります。宗教社会学は面白いですよ。



▲櫻井先生のタイ関連の著書



▲東北タイの地域研究が専門の櫻井先生(写真中央)

人生を謳歌する国民性に惹かれ
「微笑みの国」の真実を知る

タイは階層格差や地域格差が大きい国です。地方の村はどれも暮らしが厳しいと書くと、食うや食わずの姿を思い描くかもしれません。タイは世界有数の米輸出国。貧しい農村部でさえ前年の米を食べ尽くすことは少なく、餓えとは無縁な土地なのです。しかし、農産物の価格が安すぎるために、子どもを中学校や高校に通わせるための現金収入が得られません。国際支援 NGO による地域開発や出稼ぎという自助努力がなされています。私がタイ研究に惹かれる理由は、こうした経済格差や不安定な政情の中でも人生を楽しもうとする彼らの明るい民族性にあります。仏教の輪廻思想の前では今生は一時のもの。功德を積んで来世につなげる宗教文化がタイ人の日常を支えているのです。

自分のことは自分で考える
実社会を前に思考の柔軟体操

大学とはみなさんが社会に出るための知識、判断力、思考力を養う場です。大学側にはみなさんの成長を見守る教育責任があります。私が長年力を注ぐキャンパス内の「カルト」予防対策もその一環です。大学での学びを妨げない、学生の自立した人間性を養う環境づくりを目指しています。社会学とは社会の見方を提供する学問です。白黒がつかない社会問題や人間関係を内包する社会とどう距離感を持って関わっていくのか。答えを出すのはみなさん自身です。異文化を通して自分の社会を考える。海外の地域研究に取り組む先輩たち、日本の学問や文化を学ぶに来る留学生の姿もぜひ参考にしてください。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

地域科学講座

地域科学研究室

地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

Lab.letters 教員からのメッセージ

笹岡 正俊 准教授

SASAOKA Masatoshi

研究内容

熱帯地域における生物資源利用、「在来知」を活かした資源管理、住民参加型資源管理・生物多様性保全政策に関する環境社会学的研究。地域紛争・開発問題に焦点を当てたインドネシア東部島嶼部の地域研究。



▲インドネシア東部セラム島に生息する樹上性有袋類クスクス。国の指定保護動物だが、山地民にとっては重要な食糧となっている。



▲調査では一方的な聞き取りではなく、互いに楽しい時間になることを心がける。"お互いが相手の人生の一部になるようなつきあい"を理想とする。

西洋型「生物多様性保全」と
熱帯に息づく「在来知」の間で

グローバル社会の財産であるインドネシアの熱帯雨林では、アブラヤシ農園開発などにより急速に進む環境破壊の前にして「生物多様性保全」や「希少種保護」を掲げるさまざまな政策が行われています。その一方で、現地には「希少」とされ保護の対象となっている野生動物を貴重なタンパク源として日常的に利用したり、農業から得られる現金が乏しい場合の「救荒的」な現金収入源として売ることなどで自分たちの暮らしを維持している人びとも存在します。グローバル化する環境主義を背景に地域に介入してくる「上から、外から」の西洋型の「環境保全」と、現地の人びとの「在来知」に支えられた資源利用・管理の実践。この両者のあいだに潜む深刻な軋轢を乗り越え、地域の人びとの暮らしに寄り添った森林政策づくりに貢献できるよう、これからもインドネシアの森の中に分け入ってゆきたいです。

将来どの職種でも役立つ
生産的なコミュ力を鍛える場

環境に関わる社会学的研究や地域研究には研究手法について定まった"型"があるわけではありません。明らかにしたい具体的な問いかけにあわせて適切な手法を組み合わせることで研究を進めていくため、まずはフィールドに身を置くなかで湧き出てくる問いかけを明確にすることが重要なスタートライン。すべての研究には独創性・個性があり、それぞれの輝きを持っています。そうした研究の面白さを共有する場である論文指導ゼミでは、仲間の研究を前進させられるような生産的なコミュニケーション能力を養い、社会に出たときにどんな職種でも活かせる力を磨きます。環境社会学的研究や地域研究には学際的なアプローチが必要です。総合大学である北大は研究者層が非常に厚く、異なるバックグラウンドを持った研究者同士の化学反応が期待できます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

池田 透 教授 IKEDA Tohru

■研究分野
保全生態学、侵入生態学(外来種管理)、野生動物管理学、社会生態学

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi

■研究分野
都市地理学、地理情報科学(GIS)

宮内 泰介 教授 MIYAUCHI Taisuke

■研究分野
環境社会学、地域社会学、開発社会学

笹岡 正俊 准教授 SASAOKA Masatoshi

■研究分野
環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

仁平 尊明 准教授 NIHEI Takaaki

■研究分野
人文地理学、農業地理学、地誌学

立澤 史郎 助教 TATSUZAWA Shirou

■研究分野
保全生態学、環境教育論、シベリア地域研究



人間システム科学専攻 行動システム科学専修 修士課程2年（所属は2018年度以前の組織のものです）

式部 真奈 SHIKIBU Mana

被験者の“本音”である脳波を測定する
最先端の実験研究に惹かれて、大学院進学を決意。
他者の存在と負の情動の関係を脳波測定から
明らかにしようとしています。

行動心理学を入口に 脳波測定の実験に挑戦

道産子の私にとって北大はやはり一番身近にあった憧れの大学。総合入試文系で受験し、当初は法学部志望でしたが、学部1年の履修コースガイダンスで聞いた結城雅樹先生の行動心理学の授業が面白くて、一気に気持ちが文学部に傾きました。

大学院進学を決め手となった脳波測定の実験に出合ったのは、学部3年のことです。行動システム科学講座（2019年4月より行動科学講座）の教員の方々が中核メンバーとなっている北大社会科学実験研究センター※の存在を知り、そのなかでも村田明日香先生が進めている情動と脳波測定の研究を見て、「自分もやってみたい」と思うようになりました。高校まで理系科目が好きだったこともあり、実験装置の操作やデータ分析をする研究内容が自分に向いていたのだと思います。

※北海道大学社会科学実験研究センター
最先端的な社会科学実験を展開するための日本で唯一の専門機関。https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/

もうひとりの存在が被験者にどう影響するか

学部生のときから取り組んでいる研究テーマは、自分のマイナス思考をどうにかしたいという等身大の悩みから始まりました。落ち込んだとき、友達がいってくれたら気持ちが上向きますし、怖いホラー映画も誰かと一緒に楽しめる。そこで実験では、初対面の人間（私）がそばにいる状態で、「イヤな気持ちを生み出す写真」とときおりニュートラルな気持ちに戻す写真を交ぜながら120枚の写真を被験者に見てもらいながら同時に脳波を測定します。

学内で脳波測定ができる最先端の実験環境も研究の進捗を助けてくれましたが、なにより研究室や所属の枠を超えて指導してくださる熱心な先生方がいることが、最高の研究環境だったと思います。行動システム科学専修に進んで大正解でした。

PROFILE

1992年北海道江別市生まれ。北海道大学文学部卒業後、大学院文学研究科に進学。
研究のかたわら、通信教育で司書資格を取得。



＼ ここをチェック！ /

入試対策

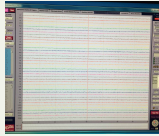
卒論執筆中に進学を決意。過去問とレジュメを見直し

Q. 学部4年2月の後期入試で入った式部さん。前期入試のときは進学志望ではなかったのですか？

A. 当時は、しばらく就活をしたのですが疲れてしまい、いったん卒業論文に集中することに。書いているうちに「もっと深めたい」と思って、進学に方向転換しました。大学院は優れた一部の学生が行く別世界のように感じていましたが、村田先生から「研究に向いているよ」と言われたことにも勇気づけられました。
試験対策は5年間の過去問チェックと授業のレジュメを見直し、面接は先輩から「本人はもうダメだと落ち込んでも、案外大丈夫なものだよ」と言われたとおりになりました。なのでこれから受験する皆さんも大丈夫、まずはチャレンジあるのみです。

Weekly Schedule 〈修士課程1年：2学期の場合〉

基本は朝から夕方5時頃まで研究室。
昼は居心地のいい図書館に移動し、母親お手製のお弁当を食べて午後からの活力をチャージする。

MON	10:30～「行動科学実験演習」TA	脳波測定のための複雑な電極装着作業も慣れてくればスピーディになりました。以前はモタついているうちに被験者が眠くなってしまったことも（笑）  
TUE	8:45～「社会の認識 社会と心」TA	
WED	研究 ●-----	
THU	8:30～ 英語ゼミ 10:30～ 行動システム科学専修共通ゼミ	院生全員が参加します。得られるものがとても多いですが、学会より緊張するかも。
FRI	13:00～ 学部ゼミ「行動科学特殊演習」	
SAT	8:30～17:00 アルバイト	はくでんが主催している小学生を対象にした「おもしろ実験室」のお手伝いをしています。
SUN	自宅で通信教育の司書講習	将来の勤務先は図書館志望です。司書資格を取るため、毎週6科目6時間の映像を見る課題をコツコツ続けました。

Annual Research Plan 〈修士課程1年の場合〉

4月	「プール取り」と呼ばれる実験参加者集め。行動システム科学専修共有の参加者募集サイトに応募条件を明記する。	
5月	日本生理心理学会でポスター発表（大阪）	
6月	実験計画	
7月		
8月	実験実施	司書資格の勉強と研究の両立に頑張る！
9月	データ分析	
10月	日本社会心理学会で口頭発表（東京）	
11月	ゼミの後輩の実験サポート	
12月	後輩の卒業論文添削	
1月	夏に行った実験よりさらに人数を増やした再実験の準備	
2月	実験開始	
3月	データ分析。就活もスタート	

学会では同行の教員が別行動を宣言。「研究を語る友人をつくること」という教えを実践しました。

「私はサークル経験がないので学部時代は同学年の友人ばかり。大学院で優秀な先輩たちに引っ張っていただき、実験では学部生たちに協力してもらって先輩後輩のありがたみを実感できました。いまは私ができることで後輩を応援したいです」。図書館志望は、北大の附属図書館本館の影響が大。「読みたい論文が必ず見つかる頼もしい場所です」。

※本項は2016年5月現在のデータで構成しています。

在学生のための情報とアーカイブが充実 〈ウェブサイト〉 www.let.hokudai.ac.jp/



文学研究科・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。

※2019年4月に文学部ウェブサイトにリニューアル予定。



▲文学研究科のオフィシャルFacebookは研究活動や研究情報を中心に更新しています。

人と情報の交差点エントランスホール



教員著書のほか北大所蔵の美術作品の企画展示もおこなう「書香の森」

文学部・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を展示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。興味のある本はすぐ近くの文学部図書室内で借りることができます。

常に机が確保できる院生研究室



研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとりが一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学部内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。学生用PC室も新しくなりました。

応用倫理・応用哲学研究教育センター



2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関わる研究教育も活動範囲に加え、2018年度より「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、新たに「応用哲学」と「死生学」を研究領域に加えることになりました。

北方研究教育センター



文学研究科が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、環境という広範囲な視点から「北方研究」を捉え、その研究・教育を推進することを目的としています。本センターでは、様々なシンポジウム、講座、研究会、学術誌刊行、講義等を企画・運営しています。

国際交流室



文学部・文学部の国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する相談受付や情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。

ラフェイ・ミシェル 准教授

LA FAY Michelle

■研究分野
日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

研究推進室



大学院生の出張旅費支援・校閲費支援の窓口、申請書の書き方セミナー（P.07-P.08）等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント（RA）のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やポスドクのみなさんの研究活動をバックアップしています。

学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、130年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外では東京オフィス、海外では韓国ソウルや欧州ヘルシンキ、アフリカルサカ、中国北京にオフィスが、またタイ、インドネシア、フィリピンにリエゾンオフィスがあり、出張や留学時の拠点として活用されています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用に恵迪寮（けいてきりょう）、女子学生と女子大学院生用には霜星寮（そうせいりょう）があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、6か所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「ともに」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

困ったり悩んだりした時には

北海道大学の「学生相談室」では修学、進学、就職などの進路相談に加え、家庭や友人関係などの個人的な問題も相談できます。ハラスメントに関することも相談員の先生が常時対応しています。文学院の建物内にも学生相談室があり、週2回相談を受け付けています。「保健センター」では、健康管理のための定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の作成、学生の健康相談および診療を行っています。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系52、体育会系67、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料免除の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント（TA）やティーチング・フェロー（TF）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度があり、給与（謝金）を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額(平成30年度)

	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円のいずれか	

DATA

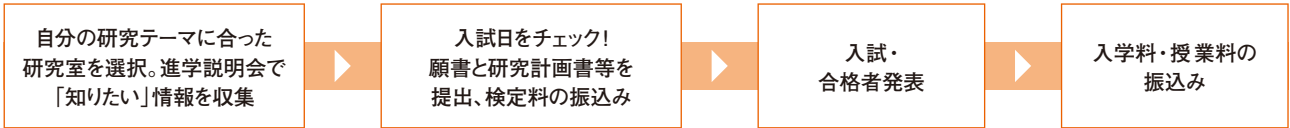
▶文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学研究科ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問][※]
入試から生活まで幅広いFAQ集→www.let.hokudai.ac.jp/examination-gs/faq/

▶北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活]
さまざまな学生生活情報を網羅→www.hokudai.ac.jp/gakusei/

[※]2019年4月に文学研究科ウェブサイトは文学院ウェブサイトにリニューアル予定です。上記URLは変更される可能性があります。

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。札幌や東京、大阪などで行う進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程が年に1回（2月中旬）、修士課程が年に2回（10月、2月／社会人は2月のみ）実施しています。詳しい募集要項と過去の入試問題などは文学研究科のサイトに掲載しています。願書付きの募集要項の請求方法は、ウェブサイトのTOPページの[資料請求]をご覧ください。
- 文学院は、一般学生とは別に外国人留学生（修士課程のみ）や社会人の入試枠も設けています。社会人入学に配慮した長期履修制度もあり、入学後のそれぞれの研究スタイルを選ぶことができます。



平成31年度入試カレンダー

		平成30年						平成31年	
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
進学説明会		28日 東京 29日 大阪	7日 札幌			17日 東京 18日 大阪	7日 札幌		
修士課程	一般・外国人留学生			25～28日 前期出願期間	27日 前期試験日			4～10日 後期出願期間	2日 後期試験日
	社会人			前期試験に 社会人入試はありません				4～10日 出願期間	2日 試験日
後期博士課程	一般・社会人							11～17日 出願期間	12日 試験日

※修士課程後期試験は、東京試験場入試も実施されます。
大学院入試情報 北大大学院文学研究科ウェブサイトTOP→[入試情報]

社会に扉を開く

[社会人入学(社会人特別入試)]

“社会に開かれた大学院”を目指して修士課程および博士後期課程の入試に「社会人入学(社会人特別入試)」を実施しています。
詳細は、募集要項をご確認ください。

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。
詳細は、北大大学院文学研究科ウェブサイトTOP→[文学研究科]→[長期履修制度]

DATA

- ▶検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円
(入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください)
授業料は前期、後期に分けて払います。また、免除制度、奨学金制度などがあります。
- ▶入学状況
www.hokudai.ac.jp/introduction/30gaiyou_0705.pdf (31-32ページ)
- ▶卒業・修了者数(学位授与数)
www.hokudai.ac.jp/introduction/30gaiyou_0705.pdf (33ページ)

MEMO

- ▶研究生
特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。
単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶聴講生・科目等履修生
授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。
科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができますが、学位を取得することはできません。

免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状 [国語、社会、英語]
- (2) 高等学校教諭一種免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]
- (3) 中学校教諭専修免許状 [国語、社会、英語]
- (4) 高等学校教諭専修免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]

※教職免許については、現在課程認定申請につき、文部科学省における審査の結果、開設時期及び免許状の種類が変更となる可能性があります。

●学芸員資格

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
平成27年度	73人	20人	30人	23人
平成28年度	80人	15人	30人	35人
平成29年度	85人	27人	29人	29人
過去3年間平均	—	26.1%	37.4%	36.6%

※その他の内訳：留学、研究生、帰国など。

〈博士後期課程〉過去5年間の進路

※学振特別研究員や専門研究員を経て就職したケースも含む（修了後5年以内）。
※単位修得退学者の進路も含む。

●大学等研究機関

金沢大学人間社会研究域、関西大学、九州大学人間環境学研究院、京都大学人文科学研究所、京都大学文学研究科、慶應義塾大学文学部、光塩学園女子短期大学、国文学研究資料館研究部、国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター、国立環境研究所生物・生態系環境研究センター、大東文化大学社会学部、玉川大学脳科学研究所、千歳科学技術大学共通教育担当、東京大学、東北アジア研究センター、同志社大学赤ちゃん学研究センター、長崎大学多文化社会学部、弘前大学教育学部、広島国際大学心理学部、広島市立大学国際学部、広島大学ダイバーシティ研究センター、福島大学人間発達文化学類、北海学園大学工学部、北星学園大学文学部、北海道医療大学、北海道科学大学、北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター、北海道大学大学文書館、宮城学院女子大学学芸学部、室蘭工業大学国際交流センター、立命館大学OIC総合研究機構、早稲田大学基幹理工学部
〈英国〉オックスフォード大学人類学・博物館民族誌学部、セントアンドリュース大学
〈フランス〉Institut Jean Nicod
〈韓国〉崇實大学校日語日文学科、清州大学校人文大学
〈タイ〉ナレースワン大学
〈中国〉華中師範大学文学部、河北経貿大学外国語学院、西安建築科技大学、西安交通大学外国語学部、同済大学、南京理工大学、南陽師範学院、マカオ大学人文科学学院
〈バングラデシュ〉ジャハंगルナガル大学

●官公庁

帯広百年記念館、道立北方民族博物館、法務省、北海道滝川高等学校、本郷新記念札幌彫刻美術館（札幌市芸術文化財団）

●民間・法人等

朝日新聞社、佐勇、商船三井キャリアサポート、秀林外語専門学校、駿台予備学校、日本入試センター、農林中金総合研究所、プロテクト、北海道開発技術センター、北海道地域農業研究所、北海道チャイナワーク

●その他 専門研究員、共同研究員、帰国など

文学院の博士後期課程を修了すると専門研究員になることができます。専門研究員は、研究を遂行するために必要な施設、図書、設備を利用でき、科学研究費補助金の申請を行うことができます。

博士後期課程
修了者の声
Voices of graduates

多様な言語研究者が集う北大で得た知見が
研究者としての糧に

金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系
准教授 西出 佳代 さん [2013年度修了]

第二外国語でフランス語を、第三外国語でドイツ語を履修した私は、もともとのフランス史やドイツ文学への興味から、両言語の接触地域の言語状況やそこで話される言語へと徐々に関心を移していきました。卒業論文でルクセンブルクとルクセンブルク語を扱おうと決めたとき、その研究領域の豊かな可能性に魅了され研究者の道を志しました。理論言語学から記述言語学まで、大言語から少数言語まで様々な専門の研究者が集まる北海道大学という環境は、私に多くの視座を与えてくれました。また、クラーク記念財団や組織的な若手研究者等海外派遣プログラムなどの助成を得て研究に励めたことは、大きな糧となっています。平成28年度には、社会的に高く評価される研究業績を上げ文学研究科の名譽を高めたとして、文学部同窓会より「楡文賞」をいただきました。

北海道大学で得られた広い知見をいかし、現職ではドイツ語学の授業を担当しながらルクセンブルク語の研究を進めています。大学院修了はゴールではありません。常にその先を見据えながら、自分の居場所を確認しつつ前へ進むことが重要ではないかと思います。

北大文学部
▼
北大大学院文学研究科
言語文学専攻 言語科学専修
博士学位取得
▼
北大大学院文学研究科専門研究員
▼
神戸大学専任講師
▼
金沢大学准教授の現職へ

●北海道大学キャリアセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

●上級人材育成ステーション

博士後期課程学生とポストドクター向けのキャリア形成支援組織。専門知識を活かしたキャリアパスを創出するための人材育成プログラムを実施しています。

修士課程修了生の就職先 過去5年間・五十音順				
○アイティ・コミュニケーションズ	○ケイシイシイ	○東芝ITコントロールシステム	○防衛省	【小学・中学・高校教員】
○アイネット	○皇室警察本部	○道路建設	○ホームロジスティクス	○札幌市立小学校
○アクセンチュア	○神戸市立博物館	○栃木県庁	○北海道エア・ウォーター	○北海道内中学校
○旭化成	○国際医療福祉大学	○苫小牧市教育委員会	○北海道建設新聞社	○北海道立高等学校
○イオンクレジットサービス	○コクミン	○苫小牧市美術博物館	○北海道消防学校	
○石狩市役所	○コーチ・ジャパン	○苫小牧信用金庫	○北海道新聞社	○札幌光星学園
○イデア・インスティテュート	○札幌市芸術文化財団	○豊浦町役場教育委員会	○北海道大学	○札幌第一高等学校
○医薬生物学研究so	○札幌市役所	○名古屋市役所	○北海道大学附属図書館	○北嶺中・高等学校
○インクリメント・ピー	○札幌進学プラザ	○南砺市役所	○北海道電力	○北海道旭川藤女子高等学校
○ウェザーニューズ	○さっぽろ青少年女性活動協会	○新潟県庁	○北海道庁	○北海道共和高等学校
○エイムネクスト	○サッポロドラッグストアー	○ニトリ	○北海道旅客鉄道	○北海道札幌東高等学校
○SMBC日興證券	○札幌入国管理局	○日本アイビー・エム・ソリューション・サービス	○マースジャパン	○北海道浜頓別高等学校
○エスティーワールド	○サイボウズ		○マイナビ	○北海道紋別高等学校
○NECソリューションイノベータ	○西安交通大学（中国）	○日本医療企画	○街角企画	
○NEC ネットエスアイ	○JSE	○日本気象協会	○松江市立松江歴史館	○昭学院秀英中学・高等学校
○NTT データフォース	○JBCC ホールディングス	○日本ケーブル	○三菱UFJリース	○逗子開成中学高等学校
○NTTドコモ	○士別市立博物館	○日本航空	○メディカルツーリズム・ジャパン	○大東文化大学付属第一高等学校
○絵夢アニメーション	○JAL インフォテック	○日本コンピュータシステム	○メンバーズ	○学校法人中越学園 中越高等学校
○大船渡市役所	○住環境計画研究所	○日本電気	○ヤクルト	○不二聖心女子中学校・高等学校
○岡村製作所	○シン技術コンサル	○日本ニューホランド	○ヤマト運輸	
○帯広ソーゴ印刷	○新日鐵住金	○日本年金機構	○ヤマハ発動機	○神奈川県内中学校
○オリエンタルランド	○新日鉄住金ソリューションズ	○日本能率協会総合研究所	○余市水産博物館	○埼玉県立高等学校
○外務省	○住友電装	○日本無線	○横浜市役所	○静岡県内小学校
○夏爾サッカー(台湾)	○ゼネラルサービス	○函館市役所	○ヨシムラ	○千葉県立高等学校
○金沢大学	○総合地球環境学研究所	○パナソニック	○米子市役所	○東京都公立中学校・高校
○加森観光	○曹洞宗宗務庁	○ファーストコネクト	○ラオックス	○富山県内中学校
○河合塾	○ツルハホールディングス	○ファミリー	○リンクレア	○長野県立高等学校
○キトー	○DNP メディアクリエイト	○富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ	○ワークスグループ	○宮城県立高等学校
○キャリアバンク	○データフォーションズ	○ブライトイズ	○ワールドインテリジェンス	
○共働舎 (NPO 法人)	○テクノバン	○北京瑞葉克斯国際旅行社	○バートナースジャパン	
○栗林商会	○デジック	○ベル・クール研究所	○WOWOW	上記の他、学芸員として
○グロリアス・ジェムス	○テンボスバスターズ	○法務省	○ワコオ工業	さまざまな機関に採用されています。

修士課程
修了者の声
Voices of graduates

大学院進学で
ライフワークとしての研究のきっかけを

武庫川女子大学附属中学校・高等学校
教諭 鈴木 良平 さん [2008年度修了]

私は中学3年のときから中国史に強い興味・関心があったことから、東洋史学研究室に所属しました。在学中はしっかり中国史の勉強をしたいと思い、学部入学時より大学院進学を決めていました。大学院では、『史記』などの文献史料だけでなく、出土史料を使った、より専門的な勉強ができました。また、学会に参加することで、見識を広めることもできました。

現在の教諭の職には、非常にやりがいを感じています。授業で中学の歴史や高校の世界史を教えることで、今まで感じなかった歴史の大きな流れを理解したり、新たな視点が見つかったりすることがあります。この経験も活かしながら、大学院で取り組んだ研究をライフワークとして続けていきたいと考えています。

教員の現場でも、より専門性が求められる状況にあるので、教員を目指す方にも修士学位の取得をお薦めします。また、大学院に進学することで、自分の興味・関心についての勉強を続けるきっかけにもつながると思います。

北大文学部
▼
北大大学院文学研究科
歴史地域文化学専攻
東洋史学専修
修士学位取得
▼
武庫川女子大学附属
中学校・高等学校
教諭の現職へ

Access



文学院周辺地図



国立大学法人
北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 大学院文学院教務担当

電話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

URL <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

○制作・発行 北海道大学 大学院文学研究科
○編集担当 野村益寛、林寺正俊、太田敬子、平澤和司 (広報誌専門部会委員)
森岡和子 (研究推進室)

○企画・編集 株式会社スペースタイム
○デザイン 株式会社デクスチャー / 小杉充司

■本誌に掲載されている情報は2018年8月現在のものですが、文学研究科が2019年4月に改組されるに伴い、文学研究科を文学院と記載している部分があります。
■本誌の無断複写 (コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

